

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本近世文化（Japanese Early Modern Culture）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要：（近世文化） 1．江戸学とは何かを理解する。 2．江戸の歴史と文化について学び、考える。 3．「江戸」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 江戸の風俗・生活を伝える『絵本江戸風俗往来』『都風俗化粧伝』を購読し、いわゆる「江戸学」の出発点となる知識の整理を試みるとともに、史料収集方法や活用方法の基礎力を養うことを目標とする。また、日本近代史を学ぶうえで重要な資料・文献などの紹介も行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説をする。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	江戸と上方について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	江戸の衣と住まいについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	江戸の食を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	江戸の飢饉を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	享保・寛政・天保の改革について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	江戸時代の交通について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	江戸時代の農業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	江戸の年中行事について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	江戸の信仰、富士信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	江戸の信仰、伊勢信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	国学と国体について知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	江戸から明治へ、大政奉還について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 1．石上七鞘『日本の原点』マイナビ新書 2．『江戸学事典』弘文堂				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）・期末試験（50%）。仔細は授業時に明示する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本芸能論 A （Traditional Japanese Performing Art A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ・朗読の基礎を演習で学ぶ。 ・演劇教育の竹内敏晴、平田オリザの演技論を基にワークショップをおこなう。 ・世阿弥の「風姿花伝」をテキストとして、演劇論を理解する。									
授業目標： ・身体表現の力を身につける。 ・多様な日本の芸能文化に学ぶ。 ・世阿弥の「風姿花伝」を演劇論として学ぶ									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	この講座で学ぶことを説明し、質問を受ける					事前：何を学びたいか 事後：朗読課題を読む		講義 60分、質問 30分	
2	朗読の基礎であるポーズとプロミネンスを理解し、「スパイダーマン」のパンフレットで練習、発表する					事前：課題を読み込む 事後：草野心平詩抄を読む		講義 30分、練習 30分、発表 30分	
3	「草野心平詩抄」を朗読し、好きな詩を朗読練習し、発表する					事前：草野心平詩抄を読む 事後：浦島太郎を読む		講義 30分、練習 30分、発表 30分	
4	御伽草子「浦島太郎」を朗読し、好きな場面を暗唱、発表する					事前：浦島太郎を読み込む 事後：がまの油売りを読む		講義 30分、練習 30分、発表 30分	
5	物売りのDVDを鑑賞し、「がまの油売り」などから選び、練習し、発表する					事前：がまの油売りを読む 事後：風姿花伝を読む		講義 30分、練習 30分、発表 30分	
6	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅰ、「年来稽古条々」前半を読み、レポーターが発表、質疑し、まとめをする					事前：風姿花伝を読む 事後：風姿花伝を批評する		読む 20分、レポート 20分、質疑 30分、まとめ 20分	
7	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅱ、「年来稽古条々」後半を読み、レポーター発表、質疑し、まとめをする					事前：風姿花伝を読む 事後：風姿花伝を批評する		読む 20分、レポート 20分、質疑 30分、まとめ 20分	
8	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅲ、「第二物学条々」（女、老、直面）を読み、レポーター発表、質疑し、まとめをする					事前：風姿花伝を読む 事後：風姿花伝を批評する		読む 20分、レポート 20分、質疑 30分、まとめ 20分	
9	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅳ、「第二物学条々」（女・老人・直面）を読み、レポーター発表、質疑し、まとめをする					事前：風姿花伝を読む 事後：風姿花伝を批評する		読む 20分、レポート 20分、質疑 30分、まとめ 20分	
10	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅴ、「第二物学条々」（物狂い・法師・修羅）を読み、レポーター発表、質疑し、まとめ					事前：風姿花伝を読む 事後：風姿花伝を批評する		読む 20分、レポート 20分、質疑 30分、まとめ 20分	
11	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅴ、「第二物学条々」（神鬼・唐事）を読み、レポーター発表、質疑し、まとめをする					事前：風姿花伝を読む 事後：風姿花伝を批評する		読む 20分、レポート 20分、質疑 30分、まとめ 20分	
12	演劇ワークショップⅠ 竹内敏晴「からだことば」による、「竹内レッスン」を実践演習する					事前：運動できる服装でくる 事後：課題を何度も練習する		練習 60分、発表 30分	
13	演劇ワークショップⅡ、竹内敏晴「からだことば」による、「竹内レッスン」を実践演習する					事前：前回の課題を練習する 事後：課題を何度も練習する		練習 60分、発表 30分	
14	課題による演劇ワークショップ発表会					事前：課題を練習してくる 事後：なし		練習 30分、発表 60分	
15	日本芸能論Aを受講して、1200字でまとめ提出					事前：レポートを考えてくる 事後：なし		まとめ 60分	
教本： 世阿弥「風姿花伝」					参考文献： 教室で配布します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 演習の姿勢（50％）、レポート（30％）、技術の習得（20％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ・身体的に解放された自分にならしましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本芸能論B（Traditional Japanese Performing Art B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ・相模人形芝居長谷座の公演に参加し、「三番叟」などを通して、地域の芸能文化の継承を体験する。 ・厚木市の伝統芸能と現代のジャズとの新統合芸能祭（ez）の企画に参加する（人形遣い、裏方、会場係など）									
授業目標： ・地域の伝統的芸能を愉しむ。 ・長谷座の公演に参加し、体験を通して伝承を推進することに貢献する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	相模人形芝居長谷座、厚木市文化財保護課と学生との顔合わせと本講座の日程打ち合わせをおこなう					事前：なし 事後：台本を読んできく		自己紹介 30分、ビデオ鑑賞 40分、説明 20分	
2	文楽人形の基本的操作の説明と実際の演習を全員がする					事前：台本読み込み 事後：台本読み込み		講義 30分、演習 60分	
3	「恩曾川のカッパ『カッパのあまごい』」上演のための役割分担をする（人形、ナレーション、照明、音響、舞台等）					事前：台本読み込み 事後：台本読み込み		会議 30分、台本読み 60分	
4	恩曾川のカッパ「カッパのあまごい」上演のためのパート別練習をする（人形操作指導：長谷座、演出：中村龍一）Ⅰ					事前：自分の分担確認 事後：自分の台本チェック		打ち合わせ 15分、パート別練習 75分	
5	恩曾川のカッパ「カッパのあまごい」上演のためのパート別練習をする（人形操作指導：長谷座、演出：中村龍一）Ⅱ					事前：自分の台本チェック 事後：自分の台本チェック		打ち合わせ 15分、パート別練習 75分	
6	恩曾川のカッパ「カッパのあまごい」上演のためのパート別練習をする（人形操作指導：長谷座、演出：中村龍一）Ⅲ					事前：自分の台本チェック 事後：自分の台本チェック		打ち合わせ 15分、パート別練習 75分	
7	恩曾川のカッパ「カッパのあまごい」上演のためのパート別練習をする（人形操作指導：長谷座、演出：中村龍一）Ⅳ					事前：自分の台本チェック 事後：自分の台本チェック		打ち合わせ 15分、パート別練習 75分	
8	松蔭祭前日舞台準備とリハーサルをする					事前：自分の台本チェック 事後：自分の台本チェック		リハーサル 60分、ダメだし 30分	
9	松蔭祭で上演をする					事前：自分の台本チェック 事後：自分の台本チェック		上演 90分	
10	新統合芸能祭に向けて「恩曾川のカッパ『カッパのあまごい』」上演のための練習をするⅠ					事前：自分の台本チェック 事後：自分の台本チェック		打ち合わせ 15分、パート別練習 75分	
11	新統合芸能祭に向けて「恩曾川のカッパ『カッパのあまごい』」上演のための練習をするⅡ					事前：自分の台本チェック 事後：自分の台本チェック		打ち合わせ 15分、パート別練習 75分	
12	新統合芸能祭で「恩曾川のカッパ『カッパのあまごい』」を上演する					事前：自分の台本チェック 事後：自分の台本チェック		上演 30分、後始末 60分、	
13	人形浄瑠璃の演技を学ぶ（「八百屋お七」）舞台台本とビデオ鑑賞をする					事前：台本を読んでもおく 事後：感想をまとめる		講義 30分、鑑賞 30分、話し合い 30分	
14	人形浄瑠璃の舞台演出を学ぶ（「八百屋お七」）舞台台本とビデオ鑑賞をする					事前：台本を読んでもおく 事後：感想をまとめる		講義 30分、鑑賞 30分、話し合い 30分	
15	長谷座、文化財保護課も参加し、まとめるをする					事前：なし 事後：なし		話し合い 70分、まとめ 20分	
教本： 教室で配布します。					参考文献： 教室で配布します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 演習の姿勢（50%）、レポート（20%）、技術の習得（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 地域の伝統芸能を愉しみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本古代史（History of Ancient Japan）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 万葉の時代といえ、日本史の時代区分でいえ、古代といえる。万葉集には、時代が判明している仁徳天皇から奈良時代末期までである。その時代の状況や文化を万葉集の歌を通して理解しながら、学生のパレゼンテーションを交えながら進める。									
授業目標： 万葉の時代と文化を理解する。時代背景としての宗教、政治、生活、民俗を理解する。また、万葉集の作家と作品について学ぶ。また作者未詳歌についても学び、それらの作品の背景を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本の古代史とは何かについて学ぶ。					事前：なし 事後：授業内容の整理		講義	
2	万葉集とは何かについて学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
3	三大部立（雑歌、相聞、挽歌）について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
4	巻頭歌と最後の歌について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
5	額田王について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
6	柿本人麻呂について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
7	山部赤人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
8	高市黒人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
9	山上憶良について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
10	大伴旅人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
11	大伴家持と万葉集の成立について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
12	東歌・防人歌・伝説歌について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
13	学生のパレゼンを行う。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		演習	
14	学生のパレゼンを行う。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		演習	
15	纏めをする。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
教本： プリント配布					参考文献： 授業時に紹介				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート・発表等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず出席すること。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語Ⅰ（Japanese LanguageⅠ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	留学生							
授業概要： ・大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の練習をする。 ・受講生の日本語力に応じて、どのような練習に比重を置くかを定める。したがって、授業内容が変更になることもある。									
授業目標： 1. 大学の講義が理解できる。 2. メールや作文が書ける。 3. 友達と自然な会話ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：学びたいことを考える 事後：なし		演習	
2	読解① 指示語の内容をとらえる。 話す① 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演習	
3	作文① 表記のしかたを学ぶ。自己紹介文を書く。					事前：自己紹介を考える 事後：添削の確認		演習	
4	読解② 事実関係をとらえる。 話す② 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演習	
5	文法① 「は」と「が」を使い分ける。					事前：「ポイント」を読む 事後：練習問題		演習	
6	読解③ 文章の中で言葉の意味を考える。 話す③ 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演習	
7	作文② 文体と書き言葉について学ぶ。 自分の専門分野について書く。					事前：作文内容を考える 事後：添削の確認		演習	
8	読解④ 話の展開を把握する。 話す④ 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演習	
9	文法② 普通形を使った文型を練習する。					事前：「ポイント」を読む 事後：練習問題		演習	
10	読解⑤ 人物の気持ちを考える。 話す⑤ 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演習	
11	作文③ 段落に分けて書くことを学ぶ。 「これからの生活」というテーマで作文を書く。					事前：作文内容を考える 事後：添削の確認		演習	
12	読解⑥ 理由や根拠を読み取る。 話す⑥ 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演習	
13	文法③ 自分か他者かを文法形式から区別する。					事前：「ポイント」を読む 事後：練習問題		演習	
14	作文④ メールの書き方を学ぶ。 用件を設定してメールを書く。					事前：メール内容を考える 事後：添削の確認		演習	
15	まとめ 総復習					事前：読解・文法事項の復習 事後：期末試験準備		演習	
教本：参考文献：『日本語能力試験N1 読解必修パターン』 Jリサーチ出版 テキストは授業で伝える。『留学生の日本語② 作文編』アルク									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業活動状況(授業内のワーク、発言、意欲等) (30%)、提出物・小クイズ (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 語学は、積み重ねが大切です。総合的な日本語力を身につけるために、毎日自宅学習する習慣をつけましょう。授業欠席も厳禁です。日本語能力試験合格も目指して、指導します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語Ⅱ（Japanese LanguageⅡ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語Ⅰ							
	そ の 他	留学生							
授業概要： ・大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の練習をする。 ・受講生の日本語力に応じて、どのような練習に比重を置くかを決める。したがって、授業内容が変更になることもある。									
授業目標： 1．新聞を読んで理解できる。 2．レポートが書ける。 3．自然な敬語を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：学びたいことを考える 事後：なし		演 習	
2	読解① 全体の内容を考える。 話す① 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演 習	
3	文法① 自動詞と他動詞を区別して使う。					事前：「ポイント」を読む 事後：練習問題		演 習	
4	読解② 筆者の主張をとらえる。 話す② 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演 習	
5	作文① テーマを述べる表現を学ぶ。 「国の特別なもの」というテーマで作文を書く。					事前：作文内容を考える 事後：添削の確認		演 習	
6	読解③ 〈長文〉解説文を読む。 話す③ 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演 習	
7	文法② 可能表現を覚えて使う。					事前：「ポイント」を読む 事後：練習問題		演 習	
8	読解④ 〈長文〉論説文を読む。 話す④ 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演 習	
9	作文② 理由・経過を述べる。 自国の特別なものについて、作文を書く。					事前：作文内容を考える 事後：添削の確認		演 習	
10	読解⑤ 〈長文〉エッセイを読む。 話す⑤ 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演 習	
11	文法③ 条件文を適切に使う。					事前：「ポイント」を読む 事後：練習問題		演 習	
12	読解⑥ 〈長文〉小説を読む。 話す⑥ 読解テーマについて、意見を出し合う。					事前：語句を調べる 事後：漢字の練習		演 習	
13	作文③ 定義をする。 ゴミの問題について、作文を書く。					事前：作文内容を考える 事後：添削の確認		演 習	
14	文法④ 敬語を学び、使う。					事前：「ポイント」を読む 事後：練習問題		演 習	
15	まとめ 総復習					事前：読解・文法事項の復習 事後：期末試験準備		演 習	
教本：参考文献：『日本語能力試験N1 読解必修パターン』Jリサーチ出版 テキストは授業で伝える。『留学生の日本語② 作文編』アルク									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業活動状況(授業内のワーク、発言、意欲等) (30%)、提出物・小クイズ (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 語学は、積み重ねが大切です。総合的な日本語力を身につけるために、毎日自宅学習する習慣をつけましょう。授業欠席も厳禁です。日本語能力試験合格も目指して、指導します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語Ⅲ（Japanese LanguageⅢ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	留学生							
授業概要： 大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に伸ばすために、聴解・読解・作文・会話など、さまざまな練習をする。受講生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを決める。小テストを数回行う									
授業目標： ・専門科目の教科書・参考書を読んで理解できる。 ・ニュースを聞いて、内容を伝えることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備		講義(45分)・演習(45分)	
2	読解 (1)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
3	文法・語彙 (1)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
4	聴解・口頭表現 (1)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
5	文章表現 (1)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		講義(45分)・演習(45分)	
6	読解 (2)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
7	文法・語彙 (2)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
8	聴解・口頭表現 (2)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
9	文章表現 (2)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		講義(45分)・演習(45分)	
10	読解 (3)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
11	文法・語彙 (3)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
12	跳解・口頭表現 (3)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
13	文章表現 (3)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		講義(45分)・演習(45分)	
14	総復習 (1)					事前：発表準備 事後：フィードバックの確認		講義(45分)・演習(45分)	
15	総復習 (2)					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験の準備		講義(45分)・演習(45分)	
教本： コピーを配布					参考文献： 授業で説明				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 到達目標が達成できたかを評価する。授業活動状況（授業内のワーク、発言、意欲等）(30%)、提出物・小クイズ (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する									
学生へのアドバイス： 授業で履修する日本語の時間は、カリキュラム上は、週にたった1時間限りはありません。授業外で、自分で勉強しなければ、日本語能力を延ばすことは難しいです。授業は、自宅学習につながるようなものにしたいと思っています。N 1 合格や大学の授業を受けたり、課題レポートを作成する上で、必要な日本語能力を自分の力で取得して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本語Ⅳ（Japanese LanguageⅣ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	日本語Ⅲ							
	そ の 他	留学生							
授業概要： 大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に伸ばすために、聴解・読解・作文・会話など、さまざまな練習をする。受講生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを決める。小テストを数回行う									
授業目標： ・幅広い分野の文章を読んで理解できる。 ・フォーマルな日本語でディスカッションができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備		講義(45分)・演習(45分)	
2	読解 (1)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
3	文法・語彙 (1)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
4	聴解・口頭表現 (1)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
5	文章表現 (1)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		講義(45分)・演習(45分)	
6	読解 (2)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
7	文法・語彙 (2)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
8	聴解・口頭表現 (2)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
9	文章表現 (2)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		講義(45分)・演習(45分)	
10	読解 (3)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
11	文法・語彙 (3)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
12	読解・口頭表現 (3)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		講義(45分)・演習(45分)	
13	文章表現 (3)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		講義(45分)・演習(45分)	
14	総復習 (1)					事前：発表準備 事後：フィードバックの確認		講義(45分)・演習(45分)	
15	総復習 (2)					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験の準備		講義(45分)・演習(45分)	
教本： コピーを配布					参考文献： 授業で説明				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業活動状況（授業内のワーク、発言、意欲等）(30%)、提出物・小クイズ（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する									
学生へのアドバイス： 授業で履修する日本語の時間は、カリキュラム上は、週にたった1時間限りはありません。授業外で、自分で勉強しなければ、日本語能力を延ばすことは難しいです。授業は、自宅学習につながるようなものにしたいと思っています。N1合格や大学の授業を受けたり、課題レポートを作成する上で、必要な日本語能力を自分の力で取得して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語演習（Japanese Practice）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 日本語の文字（平仮名・カタカナ）の成立過程を理解して、日常生活で正しく活用する意識を高める。外来語や慣用句などの語句についての知識を増やし豊かな日本語力を身につける。授業ではそれぞれの日本語の知識や関心を活かして情報交換をすすめ、主体的な学びの中に楽しく展開していく。各自の興味関心から一つのテーマを選んで、総合レポートを書いて発表し合う。									
授業目標： ①日本語の文字について歴史や字形、熟語の分類等を理解して、正しく活用できる ②故事成語や諺を調べて意味を知り、「座右の銘」を持ったり、生活の中でも活用したりする ③個人テーマで日本語のレポートを作成し、日本語力を高める									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の見通しをもち、「豊かな日本語」のイメージを広げる					事前：なし 事後：好きな言葉紹介文		講義(45分) 討議(45分)	
2	漢字の成立について4種の成り立ちを理解して、グループワークで分類し、発表する					事前：発表準備 事後：分類に5字追加		講義(45分) 討議(45分)	
3	熟語の構成を理解して、新聞の中から熟語を探してグループワークで分類する					事前：新聞の用意 事後：分類に5句追加		講義(45分) グループワーク(45分)	
4	平仮名の誕生の歴史を理解して、漢字・ひらがなマッチングゲームをする					事前： 事後：いろは歌を調べる		講義(45分) グループワーク(45分)	
5	平仮名表現の代表作「いろは歌」の内容を発表し、筆で色紙に書く					事前：毛筆の準備 事後：カタカナを調べる		講義(45分) 実習(45分)	
6	カタカナの成立について発表し、元の漢字を確認する。カタカナ表記する言葉を拾い出し、グループで分類する					事前：新聞の用意 事後：外来語調べ		講義(45分) グループワーク(45分)	
7	外国の文化とともに日本に入ってきた外来語を調べて発表する（オランダ、ポルトガル、フランス、イギリス等）					事前：発表内容の確認 事後：ノート整理		発表(90分)	
8	明治時代の外来語、翻訳語の是非について討議する					事前：翻訳語を調べる 事後：最近の外来語集め		講義(45分) 討議(45分)	
9	意味が分からないまま使っている外来語など、今も増え続ける外来語の種類とその理由について討議する					事前：最近の外来語集め 事後：四字熟語集め		講義(45分) 討議(45分)	
10	四字熟語・慣用句・ことわざなど生活に密着している語句を調べて、意味や使い方を理解する					事前：ことわざ集め 事後：故事成語調べ		講義(45分) 討議(45分)	
11	故事成語の故事と意味について調べたことを発表し、日本語として生き続ける理由を話し合う					事前：発表内容の確認 事後：故事成語の追加		発表(45分) 討議(45分)	
12	故事成語から自分の生き方の「座右の銘」する言葉を選んで発表し、色紙や短冊に書いて手元に置くようにする					事前：毛筆の準備 事後：日本語情報を集める		発表(45分) 実習(45分)	
13	日本語の文字や言葉について関心のあることをテーマにレポートを書く準備をする					事前：日本語情報を集める 事後：文献やデータを収集		講義(20分) レポート作成(70分)	
14	必要な資料・情報を精読したり分析したりして、構成を考え、自分の意見をもつように考える					事前：文章構成を考える 事後：レポート入力		レポート作成(90分)	
15	レポート発表会を開いて日本語の知見を高める					事前：発表内容の確認 事後：なし		発表・質疑(90分)	
教本：					参考文献： 「日本語 新(上)(下)」金田一晴彦 岩波新書 ことわざ辞典、四字熟語辞典など				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語演習A（Japanese Practice A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 日本語の文字（平仮名・カタカナ）の成立過程を理解して、日常生活で正しく活用する意識を高める。外来語や慣用句などの語句についての知識を増やし豊かな日本語力を身につける。授業ではそれぞれの日本語の知識や関心を活かして情報交換をすすめ、主体的な学びの中に楽しく展開していく。各自の興味関心から一つのテーマを選んで、総合レポートを書いて発表し合う。									
授業目標： ①日本語の文字について歴史や字形、熟語の分類等を理解して、正しく活用できる ②故事成語や諺を調べて意味を知り、「座右の銘」を持ったり、生活の中でも活用したりする ③個人テーマで日本語のレポートを作成し、日本語力を高める									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の見通しをもち、「豊かな日本語」のイメージを広げる					事前：なし 事後：好きな言葉紹介文		講義(45分) 討議(45分)	
2	漢字の成立について4種の成り立ちを理解して、グループワークで分類し、発表する					事前：発表準備 事後：分類に5字追加		講義(45分) 討議(45分)	
3	熟語の構成を理解して、新聞の中から熟語を探してグループワークで分類する					事前：新聞の用意 事後：分類に5句追加		講義(45分) グループワーク(45分)	
4	平仮名の誕生の歴史を理解して、漢字・ひらがなマッチングゲームをする					事前： 事後：いろは歌を調べる		講義(45分) グループワーク(45分)	
5	平仮名表現の代表作「いろは歌」の内容を発表し、筆で色紙に書く					事前：毛筆の準備 事後：カタカナを調べる		講義(45分) 実習(45分)	
6	カタカナの成立について発表し、元の漢字を確認する。カタカナ表記する言葉を拾い出し、グループで分類する					事前：新聞の用意 事後：外来語調べ		講義(45分) グループワーク(45分)	
7	外国の文化とともに日本に入ってきた外来語を調べて発表する（オランダ、ポルトガル、フランス、イギリス等）					事前：発表内容の確認 事後：ノート整理		発表(90分)	
8	明治時代の外来語、翻訳語の是非について討議する					事前：翻訳語を調べる 事後：最近の外来語集め		講義(45分) 討議(45分)	
9	意味が分からないまま使っている外来語など、今も増え続ける外来語の種類とその理由について討議する					事前：最近の外来語集め 事後：四字熟語集め		講義(45分) 討議(45分)	
10	四字熟語・慣用句・ことわざなど生活に密着している語句を調べて、意味や使い方を理解する					事前：ことわざ集め 事後：故事成語調べ		講義(45分) 討議(45分)	
11	故事成語の故事と意味について調べたことを発表し、日本語として生き続ける理由を話し合う					事前：発表内容の確認 事後：故事成語の追加		発表(45分) 討議(45分)	
12	故事成語から自分の生き方の「座右の銘」する言葉を選んで発表し、色紙や短冊に書いて手元に置くようにする					事前：毛筆の準備 事後：日本語情報を集める		発表(45分) 実習(45分)	
13	日本語の文字や言葉について関心のあることをテーマにレポートを書く準備をする					事前：日本語情報を集める 事後：文献やデータを収集		講義(20分) レポート作成(70分)	
14	必要な資料・情報を精読したり分析したりして、構成を考え、自分の意見をもつように考える					事前：文章構成を考える 事後：レポート入力		レポート作成(90分)	
15	レポート発表会を開いて日本語の知見を高める					事前：発表内容の確認 事後：なし		発表・質疑(90分)	
教本：					参考文献： 「日本語 新(上)(下)」金田一晴彦 岩波新書 ことわざ辞典、四字熟語辞典など				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語演習 B （Japanese Practice B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 日本語の特色ある言葉、言い回し、文学などのよさを理解し、声に出して表現しながら味わっていく。日本語のリズムや語感を体験しながら、日本語(人)の感性を磨いていく。									
授業目標： ①朗読や群読、暗唱などで、日本語の響きを感じたり、文学作品や芸能の表現の豊かさを味わったりする ②オノマトペを調べて擬音語、擬情語などをから、日本語の表現や日本人の心情の機微を味わう ③好きな作品を紹介したり、朗読を聞き合ったりしてそれぞれの表現のよさなどについて感想交流をする									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	「豊かな秘本語」を音声表現で味わう授業であることを理解する 早口言葉をリズム・テンポにあわせて表現する					事前：なし 事後：早口言葉の練習		講義(30分) 発表(60分)	
2	「リズム・テンポに乗る」日本語の表現を早口言葉、付け足し言葉を集めて、練習し、発表する					事前：早口言葉の練習 事後：つけたし言葉調べ		講義(30分) 発表(60分)	
3	白秋の五十音を知って、情景を想像しながら、滑舌よく一人読みや群読などで表現し、日本語の語感を楽しむ					事前：つけたし言葉練習 事後：白秋の五十音練習		講義(30分) 発表(60分)	
4	リズム・テンポに乗って、落語や俳句を味わう。寿限無の面白さと、俳句の五・七・五音の心地よさを味わう					事前：テキスト音読 事後：テキスト復習		講義(30分) 発表(60分)	
5	「あこがれに浮き立つ」日本文学の作者について調べて、好きな作品を朗読する					事前：寿限無・俳句確認 事後：文学作品レポート①		講義(15分) 発表(75分)	
6	テキストの外に、自分の好きな作品を紹介し、朗読を聞き合い感想交流する					事前：レポートの内容確認 事後：テキスト予習		講義(15分) 発表(75分)	
7	平家物語の時代背景と概要を調べた上で、冒頭部分の言い回しを練習し暗唱する					事前：平家物語調べ 事後：方丈記調べ		課題解決(60分) グループワーク(30分)	
8	方丈記の時代背景と概要を調べた上で、冒頭部分の言い回しを練習し暗唱する 2作品に共通する日本人の心情を話し合う					事前：テキスト予習 事後：無情レポート②		課題解決(60分) グループワーク(30分)	
9	「日本の古典芸能」である歌舞伎や人形浄瑠璃などを視聴し、独特の発声や言い回し、衣装、動きなど表現について話し合う					事前：テキスト予習 事後：テキスト漢詩音読		講義(45分) 討議(45分)	
10	「漢詩」静夜思や春暁など馴染みのある漢詩を視聴し、日本語読みで朗読する					事前：テキスト予習 事後：ノート整理		講義(30分) 発表(60分)	
11	詩や文学に見られるオノマトペは何を表現しているかを話し合う また、オノマトペを収集、分類し、語感を味わう					事前：オノマトペ調べ 事後：ワークシート		講義(30分) 発表(60分)	
12	オノマトペの中の擬情語をいろいろな表現で表し比較する					事前：レポート準備 事後：オノマトペレポート③		講義(30分) 発表(60分)	
13	百人一首の成立と枕詞について理解し、好きな歌十首を選んで情景、選んだ理由をまとめ紹介する					事前：既知の百人一首 事後：枕詞を調べる		講義(30分) 発表(60分)	
14	庶民の生活の術を集めた犬棒かるた（いろはかるた）の意味を調べて使い方を考える					事前：テキスト音読 事後：百人一首の暗唱		講義(30分) 発表(60分)	
15	読み手を交代しながら百人一首や犬棒かるたで、日本語の語感、日本の文化を楽しむ					事前：百人一首の暗唱 事後：なし		発表会(90分)	
教本：参考文庫： 「声に出して読みたい日本語」 1・2 齋藤孝 草思社文庫 ￥570＋税 適宜資料を配布する									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 数々の表現に触れながら豊かな日本語を実感しよう。みんなで声を出して楽しもう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	日本語概論（Introduction to Japanese Linguistics）						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	澤田 帆奈美									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	そ の 他	なし								
授業概要： 日本語の使用例をもとに、日本語の音声・音韻、語彙、文法、文字・表記などについて考察する。また、日常・個別の言語事象を全体の体系と関係づけて考え、日本語に対する関心を深める。										
授業目標： 1．日本語がもつ規則性・体系性に気づく。 2．日本語を構造的に理解・把握する。 3．言語としての日本語に対する関心を深める。 4．中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション 世界の中の日本語について考える					事前：世界の言語を調べる 事後：言語の系統を確認		講義 60分 演習 30分		
2	音声・音韻1（調音、子音の分類、母音の分類）について学ぶ					事前：言語音について調べる 事後：子音・母音の整理		講義 60分 演習 30分		
3	音声・音韻2（音声学と音韻論、日本語の音素、拍の体系）について学ぶ					事前：音韻論について調べる 事後：音韻の整理		講義 60分 演習 30分		
4	音声・音韻3（超音節素－アクセント、イントネーション、プロミネンス）について学ぶ					事前：超音節素について予習 事後：超音節素の特徴を復習		講義 60分 演習 30分		
5	語彙1（意味の体系、語種）について学ぶ					事前：語種について調べる 事後：プリント問題		講義 60分 演習 30分		
6	語彙2（語構成）について学ぶ					事前：語構成について調べる 事後：プリント問題		講義 60分 演習 30分		
7	文法1（単語と文、文の組み立て）について学ぶ					事前：プリントを読んてくる 事後：プリント問題		講義 60分 演習 30分		
8	文法2（単語の形〈形態論〉）について学ぶ					事前：プリント活用表の完成 事後：語形変化の確認		講義 60分 演習 30分		
9	文法3（文の構造〈統語論〉）について学ぶ					事前：プリントを読んてくる 事後：モダリティの確認		講義 60分 演習 30分		
10	文字・表記1（文字の役割、漢字・かな・ローマ字）について学ぶ					事前：文字について調べる 事後：文字のなりたちの復習		講義 60分 演習 30分		
11	文字・表記2（かなづかい、送りがな、記号類）について学ぶ					事前：プリントを読んてくる 事後：かなづかいの確認		講義 60分 演習 30分		
12	社会言語学1（位相論、職業差・世代差・性差・場面差と言葉）について学ぶ					事前：言葉遣いを振り返る 事後：位相語を確認する		講義 60分 演習 30分		
13	社会言語学2（方言）について学ぶ					事前：日本語の方言を調べる 事後：プリントでの復習		講義 60分 演習 30分		
14	待遇表現（待遇表現の種類・敬語）について学ぶ					事前：待遇表現を調べる 事後：待遇表現の整理		講義 60分 演習 30分		
15	まとめ 日本語を構造的にみる					事前：言語の構造を考える 事後：試験に備える		講義 60分 演習 30分		
教本： 沖森卓也他『図解日本語』三省堂 ￥2,160 その他、資料と書き込み用プリントを配付する。										参考文献： 日野資成『ベーシック現代の日本語学』ひつじ書房 ￥1,836
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（35%）、定期試験（45%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 自分自身が使っている日本語を考察の対象とする授業です。多くの新しい発見があるでしょう。日本語に対する知的興味・おもしろさを感じることができると思います。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語学（音声・音韻）（Japanese Linguistics（Phonetics and Phonology））							科目分類	専門科目
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちは、日本語の音、たとえば「ア」「カ」「サ」「タ」……など、それぞれをどのように作って発音しているのだろうか。この授業では、それぞれの音の発音のしくみを学ぶ。また、日本語・英語・中国語など、言語によって区別する音が異なるが、日本語はどの音を区別し、どの音を区別しないのかについても考える。									
授業目標： 1．現代日本語の音声をもつ特徴を理解し、それを体系的に整理できるようになる。 2．中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 五十音図とその拡大表の理解					事前：シラバスを読んでくる 事後：プリントの確認		オリ 30分 講義 30分 問題 30分	
2	話し言葉の語形の特徴を、書き言葉との比較でとらえる。					事前：話し言葉と書き言葉の違い 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
3	アクセント 1 日本語のアクセントの特徴を考える。					事前：アクセントについて調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
4	アクセント 2 アクセントの式と型を理解する。					事前：アクセントの式と型とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
5	イントネーション、プロミネンス、ポーズについて考える。					事前：イントネーションとは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
6	日本語の子音 1 音声器官と、破裂音・摩擦音、声帯振動の有無について理解する。					事前：子音とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
7	日本語の子音 2 破裂音・鼻音・弾音、拗音について理解する。					事前：子音の分類の確認 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
8	日本語の子音 3 五十音図の各行の子音について考える。					事前：五十音図の各行の音声表記 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
9	日本語の子音 4 子音のまとめと確認問題					事前：日本語の子音全体の確認 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
10	日本語の母音について理解する。					事前：母音とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
11	音韻論 1 音声学と音韻論の違いを理解する 特殊拍の異音					事前：音声学・音韻論とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
12	音韻論 2 日本語の音素について考える。					事前：日本語の音素について 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
13	音節構造について考える。					事前：日本語の音節とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
14	期末試験に備えて練習問題を解く。					事前：プリント・ノートの確認 事後：プリントの確認		練習問題・考察 90分	
15	まとめ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験準備		質疑応答	
教本： プリントを配付する。					参考文献： 松崎寛ほか（2018）『日本語教育 よくわかる音声』アルク ￥2,200				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（15%）、提出物等（40%）、定期試験（45%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちが毎日聞いたり発したりしている言語の音について考えます。精巧な発音のしくみを知って驚くこともあるでしょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本語学（語彙）（Japanese Linguistics（Lexicology and Grammatology））							科目分類	専門科目
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 語彙論に関しては、語彙を量的・意論的・形態的に分析する方法を学ぶ。文字論に関しては、文字の種類・しくみ・機能を扱っていく。									
授業目標： 1. 日本語の語彙と文字表記の特質を理解し、これらを客観的に分析する能力を養う。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 語彙の体系1：語彙の体系の具体例を見る。					事前：シラバスを読んでくる 事後：語彙の体系の具体例の復習		オリ 30分、講義 40分、 考察 20分	
2	語彙の体系2：語彙の体系性について考える。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 30分、考察と練習 問題 60分	
3	語彙と語彙量：量的調査の方法と目的を知る。					事前：異なり語数と延べ語数 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
4	語と語形1：どの単位を1単語とするかを考える。また、1単語の長さや、和語の語形的な特徴を知る。					事前：和語の語形について調べる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
5	語と語形2：同音・同訓の語、語形のゆれについて考える。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
6	語種1：日本語の語彙について、各単語がどこから来たかによる分類を考える。					事前：借用語について調べる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
7	語種2：和語・漢語・外来語・混種語を見分け、その特徴が説明できるようになる。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
8	語構成1：単純語・合成語（複合語・派生語・畳語）の構成について知り、例をあげて説明することができる。					事前：日本語の語構成について 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
9	語構成2：それぞれの複合語や派生語が、どのような品詞から成り立っているかについて考える。					事前：配付プリントの練習問題 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
10	語の意味1：単義語と多義語、明示の意味と副次的意味について考える。					事前：明示の意味と副次的意味 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
11	語の意味2：類義と対義語、成文分析について考える。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
12	語彙調査練習：ある文章の一節を使って、語種ごとに異なり語数と延べ語数を調べる。					事前：なし 事後：語彙調査練習を完成させる		語彙調査練習	
13	文字1：文字の種類と機能について考える 漢字の語形と意味、読み方について考える。					事前：世界の文字について調べる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
14	文字2：常用漢字表と現代日本語の仮名遣いについて知り、言語活動に生かす。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
15	まとめ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：レポート作成		講義 30分、 質疑応答 60分	
教本： プリントを配付する。					参考文献： 秋元美晴ほか（2019）『日本語教育 よくわかる語彙』アルク ￥2,200				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（15%）、提出物等（35%）、レポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちが日常使っている身近な日本語について学びます。語彙論では、語の形・構成・出自・意味などを勉強します。文字論では、世界の文字の種類や、独自に発達した日本語の文字体系について勉強します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語学（文字）（Japanese Linguistics（Literature））							科目分類	専門科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 文字に関する知識、漢字に関する知識を深める。日本語において、漢字という文字は、どのような存在なのかを、履修者自らに考えてもらう。漢字力・語彙力を高めることも行なうが、ただ難しい漢字・語彙を覚えるのではなく、今後、日本語のなかで、どのように漢字を使っていくべきなのかを各自考える。									
授業目標： 1. 専門的研究や、就労時に必要な語彙を理解し、表記する漢字の書写能力を向上させる。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方） 文字のはなし 文字の発展1					事前：シラバスを読んでくる 事後：復習・ノート整理		講義 40分 演習 50分	
2	文字のはなし 文字の発展2					事前：テキストの読み・読みタスク 事後：復習・ノート整理		講義 40分 演習 50分	
3	漢字のよみ 音と訓 重箱読み・湯桶読み 古代日本の文字					事前：テキストの読み・読みタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
4	漢字のなりたち1 かたどり文字 象形文字 指事文字 漢字のおこり					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
5	漢字のなりたち2 あわせ文字 会意文字 形声文字 漢字の発展					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週の小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
6	漢字のくみため 現代の漢字のくみため 国字のはなし					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
7	漢字の音1 同音異字					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
8	漢音の音2 漢音と呉音 日本語の漢字音					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
9	漢字の訓 同訓異字 地名・人名のよみ方					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
10	漢字の意味 現代の漢字の意味					事前：テキスト・資料の読み 事後：復習・ノートまとめ		講義(30分) 討論・演習(60分)	
11	漢字のつかい方（かな書きか漢字か） おくりがな 日本の文章の変遷					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・プリント問題		講義 40分 演習 50分	
12	現代の漢字 当用漢字 日本の表記法の改革 現代かなづかい					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・プリント問題		講義 40分 演習 50分	
13	部首 画数と筆順 漢和辞典のくみため					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・ノートまとめ		講義 40分 演習 50分	
14	漢字のかながき					事前：テキスト・資料の読み 事後：復習・ノートまとめ		講義(30分) 討論・演習(60分)	
15	まとめ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：全体の振り返り		講義 40分 演習 50分	
教本：『にっぽんご7 漢字』むぎ書房 参考文献：宮島達夫 著『語彙論研究』むぎ書房									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、学期末レポートもしくは学期末試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 漢字・語彙を単に覚えるだけでなく、実際の使い方を理解してどんどん使ってみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語学（文法）（Japanese Linguistics（Grammar））						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： ・小学校、中学校で教えられている国語・口語文法を、教える立場から学ぶ。 ・私たちがふだん使っている日本語を考察の対象として客体化し、分析する。 ・1つの文法論として、その体系をとらえる。									
授業目標： 1. 国文法での品詞の考え方を理解し、国文法の体系をとらえる。 2. 日本語の用例を文法的に分析する力を養う。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「国語学」と「日本語学」の違いや特徴を理解する。文法とは何か、言葉の単位について考える。					事前：シラバスを読んてくる 事後：プリントの確認		オリ 30分 講義 40分 考察 20分	
2	文の組み立てについて考える。					事前：文の成分について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
3	単語の分類としての品詞について考える。品詞①：動詞 1 動詞の機能・意味について考える。					事前：品詞とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
4	品詞①：動詞 2 活用の種類と活用形について、例をあげて説明できるようにする。					事前：動詞の活用を調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
5	品詞①：動詞 3 意味による動詞の分類、自動詞・他動詞、その他動詞の性質について考える。					事前：形容詞・形容動詞を調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
6	品詞②：形容詞・形容動詞の機能・意味・活用について、例をあげて説明できるようにする。					事前：形容詞・形容動詞を調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
7	品詞③：名詞の機能と意味ついて考え、例をあげて説明できるようにする。					事前：名詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
8	品詞④：副詞の機能と意味ついて考え、例をあげて説明できるようにする。					事前：副詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
9	品詞⑤：連体詞・接続詞・感動詞の機能と意味ついて考え、例をあげて説明できるようにする。					事前：各品詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
10	品詞⑥：助詞 1 助詞の種類・機能・意味について考え、例をあげて説明できるようにする。「格」について考える。					事前：格助詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
11	品詞⑥：助詞 2 とりたて助詞・終助詞について考える。					事前：その他の助詞について 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
12	品詞⑥：助詞 3 接続助詞について考える。					事前：その他の助詞について 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
13	品詞⑦：助動詞の機能・意味・接続や活用について考え、例をあげて説明できるようにする。					事前：助動詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
14	モダリティと助詞・助動詞について考える。					事前：モダリティとは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
15	まとめ					事前：質問事項の洗い出し 事後：期末試験準備		質疑応答	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 高橋太郎他（2005）『日本語の文法』ひつじ書房 ￥2,640 山田敏弘（2004）『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版 ￥1,760				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20％）、小テスト・提出物等（35％）、定期試験（45％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 文法とは、文を作るときに見られる規則のことです。私たちは、ふだんあまり意識せずに日本語の文をくみため、コミュニケーションをしています。つまり、私たちは、文法を正しく適用して日本語の文を作っているのです。そんな日本語の文法について考えましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語教育実習 (Practice Teaching of Japanese)						科目分類	日本語教員科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語教授法、日本語教育方法論Ⅰ(・Ⅱ)、(日本語教育実習指導)が履修済であることを条件とする。							
	そ の 他	日本語教員養成課程履修者							
授業概要： 日本語教育実習の事前学習として、実習の目的や意義を学ぶ。そして、実習先を選び、実習のための周到な準備を行う。事後学習として、実習で学んだことを、これからの教授活動に生かしていくための方法を考える。									
授業目標： 日本語学習者を対象とした授業において、実際に教壇に立ち教えることを通して、以下のようなことを学ぶ。 1. これまでに学んできた知識や技術が、どう実践に生かされていくか、ということに気づき考える。 2. 「自ら成長していく教師」として、必要な資質について考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：実習の目的 実習先の検討：開講までに日本語学校説明会等に参加して、実習先候補をあげておく。					事前：実習先候補をあげておく 事後：ノート・資料の整理と復習		オリ 30分、講義・話し合い 60分	
2	実習前に行くこと ①：実習先候補について知る。					事前：日本語学校の授業の状況 事後：ノート・資料の整理と復習		話し合い	
3	実習前に行くこと ②：どのような準備が必要かを考える。					事前：先輩の実習記録を読む 事後：準備計画を考える		話し合い	
4	実習先を訪問し、あいさつ、見学、打ち合わせ等を行う。					事前：打ち合わせポイントの整理 事後：訪問記録の整理		見学・打ち合わせ	
5	実習前に行くこと ③：学習者・テキスト・教材・教案・授業の進め方・教師の態度を考慮に入れて教案を作成する。					事前：教案の作成 事後：教案の見直し、教材作成		話し合い	
6	実習前に行くこと ④：授業のリハーサル 1					事前：リハーサル 1 の準備 事後：リハーサル 1 の振り返り		リハーサル 40分、話し合い 50分	
7	実習前に行くこと ⑤：授業のリハーサル 2					事前：リハーサル 2 の準備 事後：リハーサル 2 の振り返り		リハーサル 40分、話し合い 50分	
8	教壇実習を行う ①					事前：実習の準備 事後：実習記録の整理		実習	
9	教壇実習を行う ②					事前：実習の準備 事後：実習記録の整理		実習	
10	実習後に行くこと ①：問題の洗い出し、授業改善のための討論を行う。					事前：実習の振り返り 事後：授業改善案の整理		話し合い	
11	実習後に行くこと ②：実習報告書作成について準備する。					事前：なし 事後：実習報告書の作成		話し合い	
12	自己成長していく教師：他から教えてもらえないこと・内省の実践について考える。					事前：教師の自己成長について 事後：授業内容の整理		話し合い	
13	教師研修について学ぶ。					事前：教師研修について調べる 事後：授業内容の整理		話し合い	
14	日本語教師の資質と役割を考える。計画－実行－評価－改善					事前：なし 事後：授業内容の整理		話し合い	
15	まとめ					事前：なし 事後：実習報告書の提出		話し合い	
教本： プリントを配付する。					参考文献： 1. 「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改訂版」（2019）文化審議会国語分科会 1. 春原憲一郎 他『日本語教師の成長と自己研修』（2006） 凡人社 ￥2,640 2. 川口義一『成長する教師のための日本語教育ガイドブック〈上〉〈下〉』（2005）ひつじ書房 各¥3,080				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 到達目標が達成できたかを評価する。授業への参加と提出物（30%）、実習参加状況（70%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日本語教員養成課程の最後の段階です。熱心に取り組めば取り組むほど、将来大いに役立つ経験になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語教育実習指導（Seminar on Practice Teaching of Japanese）						科目分類	日本語教員科目	
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	日本語教授法、日本語教育方法論Ⅰ・Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「日本語教育方法論Ⅱ」の次の段階という位置づけで、初級後半の模擬授業を行って、効果的な教授活動が実践できるようにする。「教育実習」へ向けて、具体的で実践的な指導方法を学び、初級の授業を行うことができる力をつける。									
授業目標： 1． 1つの学習項目について、導入・ドリル練習・コミュニケーションのためのアクティビティという流れを効果的に組み立て、教案を書くことができる。 2． 現場の授業に近い形で、教授活動を行うことができる。 3． 問題を予見し、あるいは問題に直面したときに、自ら解決することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（この授業で学ぶことを説明し、担当決める） 初級後半の学習項目1について学ぶ					事前：方法論Ⅰ・Ⅱの復習 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 90分	
2	初級後半の学習項目2について学ぶ					事前：基本文型の分析 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分 演習 40分	
3	初級後半の学習項目3について学ぶ					事前：基本文型の分析 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分 演習 40分	
4	模擬授業①のための学習項目の分析を行う					事前：学習項目の分析 事後：学習項目の分析の修正		発表 30分 話し合い・講評 60分	
5	初級後半の学習項目4について学ぶ					事前：基本文型の分析 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分 演習 40分	
6	作成した教案を検討する ①					事前：教案作成 事後：教案修正		発表 30分 話し合い・講評 60分	
7	さまざまな初級教材について学ぶ ①					事前：教材比較 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分 演習 40分	
8	模擬授業を行う ①					事前：模擬授業準備 事後：振り返りレポート作成		発表 30分 話し合い・講評 60分	
9	さまざまな初級教材について学ぶ ②					事前：教材比較 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分 演習 40分	
10	模擬授業2のための学習項目の分析を行う					事前：学習項目の分析 事後：学習項目の分析の修正		発表 30分 話し合い・講評 60分	
11	中級や上級の教材について学ぶ ①					事前：教材比較 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分 演習 40分	
12	作成した教案を検討する ②					事前：教案作成 事後：教案修正		発表 30分 話し合い・講評 60分	
13	中級や上級の教材について学ぶ ②					事前：教材比較 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分 演習 40分	
14	模擬授業を行う ②					事前：模擬授業準備 事後：振り返りレポート作成		発表 30分 話し合い・講評 60分	
15	全体のまとめを行う					事前：なし 事後：実習準備		講義 50分 話し合い・演習 40分	
教本： 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊』（2013）スリーエーネットワーク ￥2,700						参考文献： プリントを配付する。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(25%)、学習項目の一覧・教案の提出と発表(25%)、模擬授業と自己評価表の提出(25%)、討論参加度とフィードバック表の提出等(25%)で総合評価する。									
学生へのアドバイス： できるだけ多く教壇に立つ練習をして、少しずつ教えることに慣れましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語教育方法論Ⅰ (Methodology of Teaching Japanese as a Second Language Ⅰ)							科目分類	日本語教員科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	日本語教授法							
	そ の 他	なし							
授業概要： 日本語教員養成課程に登録した学生向けの授業であり、「日本語教授法」を履修済みであることを前提とする。初級の教え方を中心に、学習項目や活動のさせ方、教具・教材について検討していく。									
授業目標： 日本語を外国語として教える方法を学ぶ。具体的には、 1. 初級前期の学習項目の分析ができる 2. 実際に使える教案を書くことができる 3. 模擬的に教授活動を行うことができるようになることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（この授業で学ぶことを説明し、担当決める） 学習項目の一覧の見方を説明する					事前：教科書の購入 事後：授業の復習		講義 90分	
2	初級の学習項目 1『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 1～3 課（名詞述語文 ①）について学ぶ					事前：1～3 課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		発表 30分 話し合い・講評 60分	
3	初級の学習項目 2『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 1～3 課（名詞述語文 ②）について学ぶ					事前：1～3 課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		発表 30分 話し合い・講評 60分	
4	初級の学習項目 3『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 4・5 課（動詞述語文 ①）について学ぶ					事前：4・5 課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		発表 30分 話し合い・講評 60分	
5	学習項目の分析、1つの授業の流れ、教案の書き方、について学ぶ					事前：担当課の学習項目の一覧表 事後：教案の作成		講義 90分	
6	初級の学習項目 4『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 6・7 課（動詞述語文 2）について学ぶ					事前：6・7 課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		発表 30分 話し合い・講評 60分	
7	初級の学習項目 5『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 8・9 課（形容詞述語文）について学ぶ					事前：8・9 課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		発表 30分 話し合い・講評 60分	
8	作成した教案を検討する					事前：教案発表の準備 事後：教案の修正・模擬授業準備		発表 30分 話し合い・講評 60分	
9	初級の学習項目 6『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 10・11課（存在文）について学ぶ					事前：10・11課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		発表 30分 話し合い・講評 60分	
10	初級の学習項目 7『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 12・13課（過去を表す文・感情形容詞）について学ぶ					事前：12・13課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		発表 30分 話し合い・講評 60分	
11	初級の学習項目 8『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 14課（動作の継続、依頼）について学ぶ					事前：14課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		発表 30分 話し合い・講評 60分	
12	初級の学習項目 9『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 15・16課（許可を表す文・テ形接続）について学ぶ					事前：15・16課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		発表 30分 話し合い・講評 60分	
13	模擬授業を行う ①					事前：模擬授業のリハーサル 事後：振り返りレポートの作成		模擬授業実践 60分 話し合い・講評 30分	
14	模擬授業を行う ②					事前：模擬授業のリハーサル 事後：振り返りレポートの作成		模擬授業実践 60分 話し合い・講評 30分	
15	教具・教材研究（初級1）ー初級メイン教材・副教材・活動集ー 全体のまとめを行う					事前：16課までの学習項目の確認 事後：初級の教え方の確認		講義 60分 演習 30分	
教本：『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊』（2012）スリーエーネットワーク ￥2,700 参考文献：『みんなの日本語初級Ⅰ 教え方の手引き』（2000）スリーエーネットワーク ￥3,024 寺田和子他『「どうやって教える？」にお答えします 日本語の教え方ABC』（1998）アルク ￥2,052									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25%）、学習項目の一覧・教案の提出と発表（25%）、模擬授業と自己評価表の提出（25%）、討論参加度とフィードバック表の提出等（25%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日本語を使って日本語を教える基本的な技術を学びます。学生のみなさんの参加により、活気ある授業にしたい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語教育方法論Ⅱ (Methodology of Teaching Japanese as a Second Language Ⅱ)							科目分類	日本語教員科目
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語教授法、日本語教育方法論Ⅰ が履修済であることを条件とする。							
	そ の 他	日本語教員養成課程履修者							
授業概要： 日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。「日本語教育方法論Ⅰ」の次の段階という位置づけで、より多くの教室活動を知り、初級中期の模擬授業を行って教えることに慣れる。									
授業目標： 日本語を外国語として教える方法を学ぶ。具体的には、 1. 初級中期の学習項目の分析ができる 2. 効果的な活動を取り入れた教案を書くことができる 3. 模擬的な教授活動をスムーズに行うことができる ようになることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』1～13課の復習 教案の書き方の復習をする。				事前：方法論Ⅰの復習 事後：ノート・資料の整理と復習		オリ30分、講義40分、考察20分		
2	『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』14課 学習項目の確認をする。動詞の分類について学ぶ。				事前：14課の学習項目表 事後：ノート・資料の整理と復習		講義50分、考察・確認問題40分		
3	教案検討会1 参加者が作成した教案を、全員で検討し意見を出し合う。				事前：教案作成 事後：教案の修正・模擬授業準備		発表とフィードバック		
4	模擬授業と反省会1 模擬授業を行い、改善点などを話し合う。				事前：模擬授業準備・リハーサル 事後：振り返りレポートの作成		模擬授業とフィードバック		
5	『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』14課 学習項目の確認（動詞テ形の作り方とテ形を使った文型－依頼・指示）				事前：動詞テ形の作り方 事後：ノート・資料の整理と復習		講義50分、考察・確認問題40分		
6	教案検討会2 参加者が作成した教案を、全員で検討し意見を出し合う。				事前：教案作成 事後：教案の修正・模擬授業準備		発表とフィードバック		
7	模擬授業と反省会2 模擬授業を行い、改善点などを話し合う。				事前：模擬授業準備・リハーサル 事後：振り返りレポートの作成		模擬授業とフィードバック		
8	『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』15課 学習項目の確認をする。テ形を使った文型－許可・禁止について学ぶ。				事前：15課の学習項目表 事後：ノート・資料の整理と復習		講義50分、考察・確認問題40分		
9	教案検討会3 参加者が作成した教案を、全員で検討し意見を出し合う。				事前：教案作成 事後：教案の修正・模擬授業準備		発表とフィードバック		
10	模擬授業と反省会3 模擬授業を行い、改善点などを話し合う。				事前：模擬授業準備・リハーサル 事後：振り返りレポートの作成		模擬授業とフィードバック		
11	『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』17課 学習項目の確認をする。（動詞ナイ形の作り方・ナイ形を使った文型）				事前：17課の学習項目表 事後：ノート・資料の整理と復習		講義50分、考察・確認問題40分		
12	教案検討会4 参加者が作成した教案を、全員で検討し意見を出し合う。				事前：教案作成 事後：教案の修正・模擬授業準備		発表とフィードバック		
13	模擬授業と反省会4 模擬授業を行い、改善点などを話し合う。				事前：模擬授業準備・リハーサル 事後：振り返りレポートの作成		模擬授業とフィードバック		
14	『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』18課 学習項目の確認をする。（動詞辞書形の作り方・辞書形を使った文型）				事前：18課の学習項目表 事後：ノート・資料の整理と復習		講義50分、考察・確認問題40分		
15	教案検討会5 参加者が作成した教案を、全員で検討し意見を出し合う。				事前：教案作成 事後：教案の修正・模擬授業準備		発表とフィードバック		
教本：『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊』（2012）スリーエーネットワーク ￥2,750 参考文献：『みんなの日本語初級Ⅰ 教え方の手引き』（2000）スリーエーネットワーク ￥3,080 寺田和子他『「どうやって教える？」にお答えします 日本語の教え方ABC』（1998）アルク ￥2,090									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（15%）、学習項目の一覧・教案の提出と発表（35%）、模擬授業と自己評価表の提出（40%）、討論参加度とフィードバック表の提出等（10%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 事前・事後の課題（授業外での課題）が多くなります。課題をきちんとやらなければ、単位を取ることができません。模擬授業担当者は、周到な準備とリハーサルを行ってから参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本語教授法（Japanese-Language Pedagogy）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： グローバル化の進展により人やモノの移動が盛んになる中で、どのような人たちがどのような日本語を必要としているのか。また、日本語でのコミュニケーション実現のために、外国語としての日本語をどのように伝えていったらいいのか。このようなことを学ぶ。									
授業目標： 1. 日本語を外国語として教える「日本語教育」に関して、基本的な知識を身につける。 2. 日本語教育についていくつかの側面から考えることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクション 日本語教育の現状 (1) 海外編について学ぶ					事前：シラバスを読んでくる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
2	日本語教育の現状 (2) 国内編について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
3	日本語教育の歴史について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
4	日本語教育における異文化コミュニケーション (1) 文化空間について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
5	日本語教育における異文化コミュニケーション (2) 教室内でのコミュニケーションについて学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
6	外国語教授法 (1) 文法に重点をおいた教授法について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
7	外国語教授法 (2) コミュニケーションに重点をおいた教授法について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
8	外国語教授法 (3) 心理学や認知学習理論に基づいた教授法について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
9	コースデザインとシラバスについて学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
10	日本語の指導法 (1) レベル別〈初級〉について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
11	日本語の指導法 (2) レベル別〈中上級〉について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
12	日本語の指導法 (3) 技能別、対象者別について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
13	評価法について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
14	第二言語習得論について学ぶ					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 70分 演習 20分	
15	教師の役割について学ぶ 全体のまとめ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：レポートの作成		講義 70分 演習 20分	
教本： プリントを配付する。					参考文献： 1. 遠藤織枝（編）『日本語教育を学ぶ』（第二版）2011 三修社 ￥2,592 2. 佐々木泰子（編）『ベーシック日本語教育』2007 ひつじ書房 ￥2,052				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、学期末レポート（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分が今までに受けてきた外国語の授業、あるいは自分の外国語学習と照らし合わせながら、日本語を外国語として教えるということを考えてみると、興味ももてるでしょう。なお、事前学習については、その都度指示・確認します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 研 究 A （ 文 法 ） (Japanese Language Studies A (Grammar))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	松 浦 恵 津 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： ・ 小 学 校、中 学 校 で 教 え ら れ て い る 国 語 ・ 口 語 文 法 を、教 え る 立 場 か ら 学 ぶ。 ・ 私 た ち が ふ だ ん 使 っ て い る 日 本 語 を 考 察 の 対 象 と し て 客 体 化 し、分 析 す る。 ・ 1 つ の 文 法 論 と し て、そ の 体 系 を と ら え る。									
授 業 目 標： 1. 国 文 法 で の 品 詞 の 考 え 方 を 理 解 し、国 文 法 の 体 系 を と ら え る。 2. 日 本 語 の 用 例 を 文 法 的 に 分 析 す る 力 を 養 う。 3. 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 （ 最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 「国語学」と「日本語学」の違いや特徴を理解する。文法とは何か、言葉の単位について考える。					事前：シラバスを読んてくる 事後：プリントの確認		オリ 30分 講義 40分 考察 20分	
2	文の組み立てについて考える。					事前：文の成分について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
3	単語の分類としての品詞について考える。品詞①：動詞 1 動詞の機能・意味について考える。					事前：品詞とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
4	品詞①：動詞 2 活用の種類と活用形について、例をあげて説明できるようにする。					事前：動詞の活用を調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
5	品詞①：動詞 3 意味による動詞の分類、自動詞・他動詞、その他動詞の性質について考える。					事前：形容詞・形容動詞を調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
6	品詞②：形容詞・形容動詞の機能・意味・活用について、例をあげて説明できるようにする。					事前：形容詞・形容動詞を調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
7	品詞③：名詞の機能と意味について考え、例をあげて説明できるようにする。					事前：名詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
8	品詞④：副詞の機能と意味について考え、例をあげて説明できるようにする。					事前：副詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
9	品詞⑤：連体詞・接統詞・感動詞の機能と意味について考え、例をあげて説明できるようにする。					事前：各品詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
10	品詞⑥：助詞 1 助詞の種類・機能・意味について考え、例をあげて説明できるようにする。「格」について考える。					事前：格助詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
11	品詞⑥：助詞 2 とりたて助詞・終助詞について考える。					事前：その他の助詞について 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
12	品詞⑥：助詞 3 接統助詞について考える。					事前：その他の助詞について 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
13	品詞⑦：助動詞の機能・意味・接統や活用について考え、例をあげて説明できるようにする。					事前：助動詞について調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
14	モダリティと助詞・助動詞について考える。					事前：モダリティとは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
15	まとめ					事前：質問事項の洗い出し 事後：期末試験準備		質疑応答	
教 本： プリントを配布する。 参 考 文 献： 高橋太郎他（2005）『日本語の文法』ひつじ書房 ￥2,640 山田敏弘（2004）『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版 ￥1,760									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到達目標が達成できたかを評価する。 授 業 参 加 状 況 等（20％）、小 テ ス ト ・ 提 出 物 等（35％）、定 期 試 験（45％）等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 文 法 と は、文 を 作 る と き に 見 ら れ る 規 則 の こ と で す。私 た ち は、ふ だ ん あ ま り 意 識 せ ず に 日 本 語 の 文 を く み た て、コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を し て い ま す。つ ま り、私 た ち は、文 法 を 正 し く 適 用 し て 日 本 語 の 文 を 作 っ て い る の で す。そ な な 日 本 語 の 文 法 に つ い て 考 え ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語研究 B（待遇表現）（Japanese Language Studies B）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論 日本語文法							
	そ の 他	なし							
授業概要： ・待遇表現に関する資料を読み、敬語・軽卑語・尊大語、ポライトネス、配慮表現、婉曲・間接表現について考える。 ・待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析する。 ・待遇表現を使う練習も行う。									
授業目標： 1. 待遇表現の意味・種類・仕組みや、待遇表現の使い分けにかかわる要因を理解する。 2. 場面に合わせて適切な待遇表現を使うことができるようになる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 待遇表現とは何か、待遇の意味について考える。					事前：シラバスを読んでくる 事後：プリントの確認		オリ 30分 講義 30分 考察 30分	
2	「現代社会における敬意表現」について考える。					事前：敬意表現とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
3	敬語① 敬語についての基本的な考え方を理解する。					事前：敬語の種類を調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
4	敬語② 敬語の語形や語彙を確認する。					事前：練習問題 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
5	敬語③ 「敬語の指針」を読んで、敬語に対する考え方を理解する。					事前：「敬語の指針」に目を通す 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
6	待遇表現の使い分けにかかわる要因（社会的要因、心理的要因）について考える。					事前：要因として何が考えられるか 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
7	敬語③ 敬語のまとめ「敬語おもしろ相談室」を視聴して、敬語の使い方を確認する。					事前：敬語の復習 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
8	ポライトネス① ポジティブポライトネスとネガティブポライトネスについて理解し、例をあげて説明できるようにする。					事前：ポライトネスについて調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
9	ポライトネス② ポライトネスのストラテジー：どのような表現を用いてそれぞれのポライトネスが表されるかを学ぶ。					事前：なし 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
10	配慮表現について学び、適切な場面で使えるようにする。					事前：配慮表現とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
11	人称代名詞・呼称と待遇表現 呼称にどのような待遇意図がかかっているかを学ぶ。					事前：日本語の人称代名詞について 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
12	終助詞と 待遇表現／ポライトネス 終助詞に現れる待遇性について考える。					事前：終助詞について 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 30～40分	
13	待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析する－発表①					事前：発表準備 事後：発表結果の整理		発表と質疑応答	
14	待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析する－発表②					事前：発表準備 事後：発表結果の整理		発表と質疑応答	
15	まとめ 自らの待遇表現の使用を振り返る。					事前：自分の待遇表現使用を考える 事後：レポートをまとめる		質疑応答	
教本：資料と課題プリントを配付する。 参考文献：文化審議会答申（2007）「敬語の指針」									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、発表・提出物等（30%）、レポート（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 待遇表現、配慮表現は、さまざまなコミュニケーションの中で必ず見られるものです。特に社会人になったときに、適切な使用が求められます。そのことに気づくだけでも、自分自身のコミュニケーションのしかたが変わってきます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語研究 C（音声・音韻）(Japanese Language Studies C)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちは、日本語の音、たとえば「ア」「カ」「サ」「タ」……など、それぞれをどのように作って発音しているのだろうか。この授業では、それぞれの音の発音のしくみを学ぶ。また、日本語・英語・中国語など、言語によって区別する音が異なるが、日本語はどの音を区別し、どの音を区別しないのかについても考える。									
授業目標： 1. 現代日本語の音声をもつ特徴を理解し、それを体系的に整理できるようになる。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 五十音図とその拡大表の理解					事前：シラバスを読んでくる 事後：プリントの確認		オリ 30分 講義 30分 問題 30分	
2	話し言葉の語形の特徴を、書き言葉との比較でとらえる。					事前：話し言葉と書き言葉の違い 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
3	アクセント 1 日本語のアクセントの特徴を考える。					事前：アクセントについて調べる 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
4	アクセント 2 アクセントの式と型を理解する。					事前：アクセントの式と型とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
5	イントネーション、プロミネンス、ポーズについて考える。					事前：イントネーションとは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
6	日本語の子音 1 音声器官と、破裂音・摩擦音、声帯振動の有無について理解する。					事前：子音とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
7	日本語の子音 2 摩擦音・鼻音・弾音、拗音について理解する。					事前：子音の分類の確認 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
8	日本語の子音 3 五十音図の各行の子音について考える。					事前：五十音図の各行の音声表記 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
9	日本語の子音 4 子音のまとめと確認問題					事前：日本語の子音全体の確認 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
10	日本語の母音について理解する。					事前：母音とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
11	音韻論 1 音声学と音韻論の違いを理解する 特殊拍の異音					事前：音声学・音韻論とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
12	音韻論 2 日本語の音素について考える。					事前：日本語の音素について 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
13	音節構造について考える。					事前：日本語の音節とは 事後：プリントの確認		講義 50～60分 練習問題・考察 40～30分	
14	期末試験に備えて練習問題を解く。					事前：プリント・ノートの確認 事後：プリントの確認		練習問題・考察 90分	
15	まとめ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験準備		質疑応答	
教本： プリントを配付する。					参考文献： 松崎寛ほか（2018）『日本語教育 よくわかる音声』アルク ￥2,200				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（15%）、提出物等（40%）、定期試験（45%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちが毎日聞いたり発したりしている言語の音について考えます。精巧な発音のしくみを知って驚くこともあるでしょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本語研究 D（語彙・文字）（Japanese Language Studies D）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 語彙論に関しては、語彙を量的・意論的・形態的に分析する方法を学ぶ。文字論に関しては、文字の種類・しくみ・機能を扱っていく。									
授業目標： 1. 日本語の語彙と文字表記の特質を理解し、これらを客観的に分析する能力を養う。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 語彙の体系1：語彙の体系の具体例を見る。					事前：シラバスを読んでくる 事後：語彙の体系の具体例の復習		オリ 30分、講義 40分、 考察 20分	
2	語彙の体系2：語彙の体系性について考える。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 30分、考察と練習 問題 60分	
3	語彙と語彙量：量的調査の方法と目的を知る。					事前：異なり語数と延べ語数 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
4	語と語形1：どの単位を1単語とするかを考える。また、1単語の長さや、和語の語形的な特徴を知る。					事前：和語の語形について調べる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
5	語と語形2：同音・同訓の語、語形のゆれについて考える。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
6	語種1：日本語の語彙について、各単語がどこから来たかによる分類を考える。					事前：借用語について調べる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
7	語種2：和語・漢語・外来語・混種語を見分け、その特徴が説明できるようになる。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
8	語構成1：単純語・合成語（複合語・派生語・畳語）の構成について知り、例をあげて説明することができる。					事前：日本語の語構成について 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
9	語構成2：それぞれの複合語や派生語が、どのような品詞から成り立っているかについて考える。					事前：配付プリントの練習問題 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
10	語の意味1：単義語と多義語、明示的意味と副次的意味について考える。					事前：明示的意味と副次的意味 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
11	語の意味2：類義と対義語、成文分析について考える。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
12	語彙調査練習：ある文章の一節を使って、語種ごとに異なり語数と延べ語数を調べる。					事前：なし 事後：語彙調査練習を完成させる		語彙調査練習	
13	文字1：文字の種類と機能について考える 漢字の語形と意味、読み方について考える。					事前：世界の文字について調べる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
14	文字2：常用漢字表と現代日本語の仮名遣いについて知り、言語活動に生かす。					事前：配付プリントの熟読 事後：練習問題の復習		講義 50分、考察と練習 問題 40分	
15	まとめ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：レポート作成		講義 30分、 質疑応答 60分	
教本： プリントを配付する。					参考文献： 秋元美晴ほか（2019）『日本語教育 よくわかる語彙』アルク ￥2,200				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（15%）、提出物等（35%）、レポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちが日常使っている身近な日本語について学びます。語彙論では、語の形・構成・出自・意味などを勉強します。文字論では、世界の文字の種類や、独自に発達した日本語の文字体系について勉強します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語講読 (Japanese Reading)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論、日本語 (文法)、日本語 (音声・音韻)							
	そ の 他	(上記科目を履修していなくても履修できます)							
授業概要： さまざまな日本語を材料にして、日本語の仕組みを考える。これまで日本語について学んできたことを生かしながら、自ら考え、他の人の意見を聞いて、考えを発展させ、解決案を見いだしていく。									
授業目標： 1. 日本語の用例を、言語学的に分析することができる。 2. 自分の考えを述べ、他の人の意見を聞き、考えをまとめることができる。 3. 意見、考えを明快・簡潔にわかりやすく述べることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション これまで日本語学の各分野で学んだことを振り返る					事前：シラバスを読む 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
2	「しりとりにひそむ問題					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
3	「ことばの意味」の諸相					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
4	「若者ことば」の特徴					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
5	「和語・漢語・外来語」一単語の出身地					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
6	「会話の意図が伝わらない」のはなぜか					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
7	「音声と文字の対応」言われてみれば……					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
8	「ことば遊び」は何がおもしろいのか					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
9	「話しことば」と「書きことば」、どこがどう違うか					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
10	「あいまい文」になるのはどんなときか					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
11	「カタカナ」一文字の使い分け (日本語の複雑な文字体系)					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
12	「マンガのことば」一小説のことばとは違う					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
13	「丁寧体」と「普通体」一「私、失敗しないので」と「いたしません」					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
14	「漫才のことば」なぜ笑うのか					事前：資料に目を通す 事後：学習内容の整理		話し合いと発表	
15	まとめ					事前：資料の整理 事後：レポート作成		話し合いと発表	
教本： 野田尚史ほか『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ￥1,650									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (35%)、提出物 (35%)、レポート (30%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 身近な日本語について考え、意見交換をしましょう。異なった意見が出たときの対処のしかたも考えましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本語史（History of Japanese Language）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 文章・文体、文字表記、音韻、語彙、文法の各領域について、現代の日本語が、古代からどのような変遷を経て成立したのかを概観する。各時代の資料から、当時の日本語の姿をよみとる。									
授業目標： 1. 現代日本語がどのような過程を経て成立したのかを理解する。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 日本語史の時代区分を知る。					事前：シラバスを読んでくる 事後：時代区分の確認		オリ 30分、講義 40分、 プリント記入 20分	
2	文章・文体史①（上代・中古） 上代・中古の日本語資料の文章・文体について知る。					事前：なし 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
3	文章・文体史②（中世・近世）：中世の日本語資料の文章・文体について知る。					事前：配付資料に目を通す 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
4	文章・文体史③（近代）：近世・近代の日本語資料の文章・文体について知る。					事前：配付資料に目を通す 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
5	文字史①（上代）：万葉仮名のしくみについて知る。					事前：日本語の文字について 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
6	文字史②（中古以降）：ひらがな・カタカナの成立、仮名遣いの変遷について知る。					事前：配付資料に目を通す 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
7	語彙史①（上代・中古）：上代・中古の日本語資料の語彙について知る。					事前：語彙史とは 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
8	語彙史②（中世・近世・近代）：中世・近世・近代の日本語資料の語彙について知る。					事前：配付資料に目を通す 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
9	文法史①（体言、用言－動詞）：代名詞、動詞の活用の種類・各活用形の用法の変遷について知る。					事前：古代の動詞の活用について 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
10	文法史②（用言－形容詞・形容動詞）：形容詞・形容動詞の活用の種類や、各活用形の用法の変遷について知る。					事前：配付資料に目を通す 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
11	文法史③（助動詞・助詞）：助動詞・助詞の変遷について知る。					事前：配付資料に目を通す 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
12	音韻史①（上代・中古）：上代・中古の日本語の音韻について知る。					事前：なし 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
13	音韻史②（中世・近世・近代）：中世・近世・近代の日本語の音韻について知る。					事前：配付資料に目を通す 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
14	辞書の歴史を知り、現代の辞書と比較する。					事前：昔の日本語の辞書について 事後：配付資料の整理と復習		講義 50～60分、 プリント記入 30～40分	
15	まとめ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：レポート作成		質疑応答	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 岡崎友子ほか (2016)『ワークブック 日本語の歴史』くろしお出版 ￥1,650				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、提出物等（10%）、期末レポート（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 昔の人たちは、どんな日本語を使っていたのでしょうか。古代から現代までの日本語の変遷を扱います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語表現論 A (アカデミックライティング) (Study of Japanese Expression A (Academic Writing))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 実際に書かれたレポートや小論文を分析し、問題点とその原因・改善の方法を報告し合う。そして、わかりやすく説得力のある文章とは、どこがどう優れているのかを具体的に見出す。さらに、実作を通して効果的な書き方を考え、実践力を向上させる。ルーブリック・ポートフォリオによる評価を行う。									
授業目標： 1. アカデミックライティングとは何か、その目的・種類を理解し、レポート・論文を作成するための方法を考える。 2. レポート・論文作成の実践力を向上させる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「アカデミックライティングとは」について説明する 事前自己評価を行う					事前：シラバスを読んでくる 事後：レポートの文体の確認		講義 30分、演習 60分	
2	レポートの形式 構成、見出しの立て方、説明の順序、論理性、参考文献について説明する					事前：疑問点を洗い出す 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
3	レポートのテーマを考える					事前：関心のある事柄をあげる 事後：情報を集める		講義 30分、演習 60分	
4	レポートの構想を練り、情報を集めるー情報の集め方ー					事前：なし 事後：情報を集める		講義 30分、演習 60分	
5	情報を整理し、レポートの目標を定める					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
6	レポート作成① 文章を組み立てる パラグラフ・ライティング 文献引用のしかた					事前：アウトラインを考える 事後：レポート第一稿完成		講義 30分、演習 60分	
7	レポート作成② 自己点検とピア活動 レポートの目的と書き方をまとめる					事前：レポートの自己点検 事後：レポートの加筆・修正		講義 30分、演習 60分	
8	小論文の分析 論理的思考と文章構成の関係を探る、論理性や表現について検証する					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
9	小論文を書く①〈社会問題に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		講義 30分、演習 60分	
10	小論文を書く②〈文化・言語に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		講義 30分、演習 60分	
11	小論文を書く③〈生き方に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		講義 30分、演習 60分	
12	レポート発表①を行う					事前：レジュメ作成 事後：発表コメントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
13	レポート発表②を行う					事前：レジュメ作成 事後：発表コメントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
14	レポート発表③を行う					事前：レジュメ作成 事後：発表コメントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
15	まとめ ポートフォリオの中身を振り返り、事後自己評価をする					事前：ポートフォリオの整理 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
教本： 資料とタスクシートを配付する。					参考文献： 大島弥生他（2014）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]ープロセス重視のレポート作成』ひつじ書房 ￥1,728				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、提出物・自己評価表（20%）、実作のレポート・小論文（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート・論文の書き方を学びます。能動的にテーマを見つけ、論理的に文章をまとめる技能を身につけます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習	
授業科目(英文)	日本語表現論 B（ディスカッション）（Study of Japanese Expression B（Discussion））							科目分類	専門科目	
担 当 教 員	澤田 帆奈美									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	そ の 他	なし								
授業概要： ディスカッションのトレーニングを行なう。グループディスカッションの手順を知る。意見の述べ方、反論のしかた、意見のまとめ(総括)のしかたを知り、トレーニングする。ディベートの実践、分析も同様に行なう。コミュニケーションにおける自己の特徴を理解し、弱点改善のためのトレーニングを行なう。										
授業目標： 1. ディスカッションとディベートの目的や意義・方法について理解を深める。 2. 自らの立場を明確にして論理的に意見を述べるができる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション（授業の進め方） 自己評価 グループディスカッションについて（概説）					事前：シラバスを読んでくる 事後：資料の整理と記入		講義(40分)・各自作業（60分）		
2	自己理解を深める アイスブレイク、スモールトーク グループディスカッション 事前準備 1					事前：事前資料の読み 事後：活動メモの整理記入		講義(20分)・グループ活動(70分)		
3	傾聴(うなずき・あいづち・復唱)、議論でのルール 司会者(ファシリテーター)の役割 グループディスカッション 事前準備 2					事前：事前資料の読み 事後：活動メモの整理記入		講義(30分)・グループ活動(60分)		
4	ブレインストーミング・ブレイン・ライティング(概説) グループディスカッション 1（ブレイン・ライディング）					事前：事前資料の読み 事後：活動メモの整理記入		講義(40分)・グループ活動(50分)		
5	意見の述べ方（意見と根拠 論理性） グループディスカッション 2（ブレイン・ライディング）					事前：事前資料の読み 事後：活動メモの整理記入		講義(20分)・グループ活動(70分)		
6	アイディアの広げ方 別の立場・視点から考える グループディスカッション 3（ブレインストーミング）					事前：事前資料の読み 事後：活動メモの整理記入		講義(20分)・グループ活動(70分)		
7	議論の整理のしかた グループディスカッション 4（ブレインストーミング）					事前：事前資料の読み 事後：活動メモの整理記入		講義(20分)・グループ活動(70分)		
8	論題(テーマ)の種類 テーマ分析と論点の確認 グループディスカッション 5					事前：事前資料の読み 事後：活動メモの整理記入		講義(30分)・グループ活動(60分)		
9	意見への質問のしかた 議論の深め方（反対意見を想定してみる） グループディスカッション 6					事前：事前資料の読み 事後：活動メモの整理記入		講義(20分)・グループ活動(60分)		
10	反論のしかた（引用、譲歩、反駁） グループディスカッション 7					事前：事前資料の読み 事後：活動メモの整理記入		講義(20分)・グループ活動(60分)		
11	意見のまとめ(総括)のしかた グループディスカッション 8					事前：事前資料の読み 事後：活動メモの整理記入		講義(20分)・グループ活動(60分)		
12	ディベートについて（概説） 動画視聴					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理		講義(50分)・グループ活動(60分)		
13	ディベート 1					事前：なし 事後：活動メモの整理記入		講義(30分)・グループ活動(60分)		
14	ディベート 2					事前：なし 事後：活動メモの整理記入		講義(30分)・グループ活動(60分)		
15	全体のまとめ 事後自己評価					事前：質問・確認の洗い出し 事後：なし		講義(30分)・グループ活動(60分)		
教本： 宮内泰介著『グループディスカッションで学ぶ 社会学トレーニング』三省堂 ・資料とタスクシートを配付する。										参考文献： 下瀬川慧子他『日本語 口頭発表と討論の技術』東海大学出版会 中野美香著『大学生からのグループディスカッション入門』ナカニシヤ出版
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 議論への参加等の発言（65％）、振り返りレポート・提出物等（30％）、自己評価票（5％）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 議論することのおもしろさを経験しましょう。討論に参加する際の発言のしかたやマナーなども身につけます。積極的に議論に参加しようという心構えを持って受講してください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語表現論 C (漢字・語彙力養成) (Study of Japanese Expression C(Kanji and Vocabulary Building))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 文字に関する知識、漢字に関する知識を深める。日本語において、漢字という文字は、どのような存在なのかを、履修者自らに考えてもらう。漢字力・語彙力を高めることも行なうが、ただ難しい漢字・語彙を覚えるのではなく、今後、日本語のなかで、どのように漢字を使っていくべきなのかを各自考える。									
授業目標： 1. 専門的研究や、就労時に必要な語彙を理解し、表記する漢字の書写能力を向上させる。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方） 文字のはなし 文字の発展 1					事前：シラバスを読んでくる 事後：復習・ノート整理		講義 40分 演習 50分	
2	文字のはなし 文字の発展 2					事前：テキストの読み・読みタスク 事後：復習・ノート整理		講義 40分 演習 50分	
3	漢字のよみ 音と訓 重箱読み・湯桶読み 古代日本の文字					事前：テキストの読み・読みタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
4	漢字のなりたち 1 かたどり文字 象形文字 指事文字 漢字のおこり					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
5	漢字のなりたち 2 あわせ文字 会意文字 形声文字 漢字の発展					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週の小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
6	漢字のくみため 現代の漢字のくみため 国字のはなし					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
7	漢字の音 1 同音異字					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
8	漢音の音 2 漢音と呉音 日本語の漢字音					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
9	漢字の訓 同訓異字 地名・人名のよみ方					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・次週小テスト準備		講義 40分 演習 50分	
10	漢字の意味 現代の漢字の意味					事前：テキスト・資料の読み 事後：復習・ノートまとめ		講義(30分) 討論・演習(60分)	
11	漢字のつかい方（かな書きか漢字か） おくりがな 日本の文章の変遷					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・プリント問題		講義 40分 演習 50分	
12	現代の漢字 当用漢字 日本の表記法の改革 現代かなづかい					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・プリント問題		講義 40分 演習 50分	
13	部首 画数と筆順 漢和辞典のくみため					事前：テキストの読み・読みのタスク 事後：復習・ノートまとめ		講義 40分 演習 50分	
14	漢字のかながき					事前：テキスト・資料の読み 事後：復習・ノートまとめ		講義(30分) 討論・演習(60分)	
15	まとめ					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：全体の振り返り		講義 40分 演習 50分	
教本：『にっぽんご7 漢字』むぎ書房 参考文献：宮島達夫 著『語彙論研究』むぎ書房									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、学期末レポートもしくは学期末試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 漢字・語彙を単に覚えるだけでなく、実際の使い方を理解してどんどん使ってみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語表現論D（ビジネス・日本語）(Study of Japanese Expression D)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代では不可欠なコミュニケーション手段となっている電子メールと、依然としてコミュニケーション上重要な役割を担っている伝統的な手紙を分析・比較する。さらに、ビジネス文書の書き方を学ぶ。それぞれの文章について、「簡明さ」「相手にふさわしい表現」「慣習的に定められた書式」という3点に留意し、状況や目的に合った書き方を検討・実践する。									
授業目標： 1. 実用文としての機能をもつ手紙、電子メール、ビジネス文書について、それぞれの文章構造、機能、語彙・表現やその背景にある文化や社会的要請を分析・考察し、状況に応じて適切に書くことができるようになる。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 手紙の書き方1 手紙文の形式・マナー 頭語と結語					事前：シラバスを読んでくる 事後：資料の復習		講義40分、演習50分	
2	手紙の書き方2 時候のあいさつ 手紙のことば（日本語検定から）					事前：事前配付資料の読み 事後：資料の復習		講義40分、演習50分	
3	手紙の書き方3 手紙に使える季節のことば 近況報告の手紙を書く					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
4	手紙の書き方4 手紙のことば（日本語検定から） 手紙のレイアウト					事前：事前配付資料の読み 事後：資料の復習		講義40分、演習50分	
5	手紙の書き方5 敬語 敬称・謙称 忌み言葉 お礼の手紙を書く					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
6	メールの書き方1 手紙・メールの比較 メールの形式・マナー					事前：事前配付資料の読み 事後：比較分析結果の整理		講義40分、演習50分	
7	メールの書き方2 間違いだらけのメール 分析 正しく書き直す					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
8	メールの書き方3 お願いのメール 分析 正しく書きなおす					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
9	メールの書き方4 誘いのメール 分析 正しく書きなおす					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
10	メールの書き方5 さまざまなシチュエーションでのメール文					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
11	ビジネス文書(概説) 間違いだらけのビジネス文書 分析					事前：事前配付資料の読み 事後：分析結果の整理		講義30分、 討論・演習60分	
12	ビジネス文書(実践篇) ビジネス文書を作成する					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義30分、演習60分	
13	年賀状のマナー 文章検定（手紙に関する問題）					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
14	文章検定（手紙に関する問題）					事前：事前配付資料の読み 事後：資料の復習		講義40分、演習50分	
15	全体のまとめ（手紙・メールのマナーについて）行なう					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：全体のまとめ		講義40分、演習50分	
教本： プリントを配付する。					参考文献： 松浦照子著『実践日本語表現』ナカニシヤ出版 長尾佳代子他著『大学生のための日本語技法』ナカニシヤ出版 中川越著『文豪に学ぶ手紙の言葉の選び方』東京新聞 野田尚史他著『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（15%）、分析結果の発表等（25%）、実作の手紙・メール（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ビジネスなどで使うフォーマルな手紙やメールの書き方を学びます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語表現論D（手紙・メール）(Study of Japanese Expression D)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代では不可欠なコミュニケーション手段となっている電子メールと、依然としてコミュニケーション上重要な役割を担っている伝統的な手紙を分析・比較する。さらに、ビジネス文書の書き方を学ぶ。それぞれの文章について、「簡明さ」「相手にふさわしい表現」「慣習的に定められた書式」という3点に留意し、状況や目的に合った書き方を検討・実践する。									
授業目標： 1. 実用文としての機能をもつ手紙、電子メール、ビジネス文書について、それぞれの文章構造、機能、語彙・表現やその背景にある文化や社会的要請を分析・考察し、状況に応じて適切に書くことができるようになる。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 手紙の書き方1 手紙文の形式・マナー 頭語と結語					事前：シラバスを読んでくる 事後：資料の復習		講義40分、演習50分	
2	手紙の書き方2 時候のあいさつ 手紙のことば（日本語検定から）					事前：事前配付資料の読み 事後：資料の復習		講義40分、演習50分	
3	手紙の書き方3 手紙に使える季節のことば 近況報告の手紙を書く					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
4	手紙の書き方4 手紙のことば（日本語検定から） 手紙のレイアウト					事前：事前配付資料の読み 事後：資料の復習		講義40分、演習50分	
5	手紙の書き方5 敬語 敬称・謙称 忌み言葉 お礼の手紙を書く					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
6	メールの書き方1 手紙・メールの比較 メールの形式・マナー					事前：事前配付資料の読み 事後：比較分析結果の整理		講義40分、演習50分	
7	メールの書き方2 間違いだらけのメール 分析 正しく書き直す					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
8	メールの書き方3 お願いのメール 分析 正しく書きなおす					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
9	メールの書き方4 誘いのメール 分析 正しく書きなおす					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
10	メールの書き方5 さまざまなシチュエーションでのメール文					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
11	ビジネス文書(概説) 間違いだらけのビジネス文書 分析					事前：事前配付資料の読み 事後：分析結果の整理		講義30分、 討論・演習60分	
12	ビジネス文書(実践篇) ビジネス文書を作成する					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義30分、演習60分	
13	年賀状のマナー 文章検定（手紙に関する問題）					事前：事前配付資料の読み 事後：添削結果の確認		講義40分、演習50分	
14	文章検定（手紙に関する問題）					事前：事前配付資料の読み 事後：資料の復習		講義40分、演習50分	
15	全体のまとめ（手紙・メールのマナーについて）行なう					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：全体のまとめ		講義40分、演習50分	
教本： プリントを配付する。					参考文献： 松浦照子著『実践日本語表現』ナカニシヤ出版 長尾佳代子他著『大学生のための日本語技法』ナカニシヤ出版 中川越著『文豪に学ぶ手紙の言葉の選び方』東京新聞 野田尚史他著『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（15%）、分析結果の発表等（25%）、実作の手紙・メール（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ビジネスなどで使うフォーマルな手紙やメールの書き方を学びます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本語表現論 E (ビジネス会話・文書) (Study of Japanese Expression E))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「情報、知識、感情、意思」を相手とどのように共有すればビジネスにおけるコミュニケーションや、関係構築がスムーズにできるのかを学ぶ。具体的には、インターンシップや就職活動等で必要な社会人としての心構えや基本動作、接遇・電話応対等におけるビジネス会話、メールやビジネス文書の作成等、様々なケーススタディやグループワークを通じて実践的に身につけていく。									
授業目標： ①ビジネスの場面に相応しい敬語の用法、表現技法等の知識を有し、適切に用いることができる。 ②メールやビジネス文書作成に必要な基本事項、表現技法等の知識を有し、実際に作成することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバスを読む 事後：配付資料を読む		講義(60分)・演習(30分)	
2	第一印象の重要性、挨拶と基本動作					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
3	ビジネスコミュニケーション①（話し方と聴き方）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
4	ビジネスコミュニケーション②（社会人基礎力）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
5	敬語①（敬語の用法 丁寧語・謙譲語・尊敬語）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
6	敬語②（実践トレーニング）					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
7	ビジネス会話①（電話応対）電話のマナー 実践トレーニング①					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
8	ビジネス会話②（電話応対）実践トレーニング②					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
9	ビジネス会話③（来客応対）応接のマナー 実践トレーニング①					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
10	ビジネス会話④（来客応対）応接のマナー 実践トレーニング②					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
11	ビジネス文書①（メール・ビジネス文書）					事前：事前配付の資料を読む 事後：文書の作成(次週提出)		講義(30分)・ディスカッション・演習(60分)	
12	ビジネス文書②（メール・ビジネス文書）					事前：事前配付の資料を読む 事後：文書の作成(次週提出)		講義(30分)・ディスカッション・演習(60分)	
13	ビジネス会話⑤（企業訪問）訪問のマナー 実践トレーニング①					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
14	ビジネス会話⑥（企業訪問）訪問のマナー 実践トレーニング②					事前：事前配付の資料を読む 事後：ワークシートの記入		講義(30分)・ディスカッション・実践練習(60分)	
15	全体のまとめ					事前：質問事項の洗い出し 事後：なし		講義(50分)・演習(40分)	
教本： 教材は、授業前に配布します。					参考文献： 『ビジネス日本語 ①内定者編』凡人社 『ビジネス日本語 ②新入社員編』凡人社 『ビジネスマナー基礎実習』早稲田教育出版社				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかどうかで評価します。 グループワーク等授業への取り組み姿勢（40%）、課題・コメントペーパー等（35%）、最終課題（35%）により総合的に評価する。									
学生へのアドバイス： ビジネス会話・文書作成のスキルを、学生のうちから身につけておくと、就活の際、武器になります。毎回の予習復習をしっかりと行うことで着実にスキルが身につきますので、目標意識を明確にして取り組みましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語プレゼンテーション（Presentation in Japanese）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 社会のさまざまな場面でプレゼンテーションの機会があり、コミュニケーションの大切な手段の一つとなっています。授業では、プレゼンテーションを効果的に実践できるよう、基礎を指導し、さまざまな課題に取り組みます。									
授業目標： 日本語表現とコミュニケーション能力の向上を目指します。自分の考え方を的確に相手に伝える表現を学び、プレゼンテーションの基礎を身に着けることを目的とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義90分	
2	「感じる」を表現する ①					事前：なし 事後：「感じる」を表現する		講義60分 ディスカッション30分	
3	「感じる」を表現する ②					事前：「感じる」を表現する 事後：「感じる」を表現する		講義20分 グループワーク70分	
4	「感じる」を表現する ③					事前：「感じる」を表現する 事後：なし		講義20分 グループワーク70分	
5	「伝える」を表現する ①					事前：なし 事後：「伝える」を表現する		講義60分 ディスカッション30分	
6	「伝える」を表現する ②					事前：「伝える」を表現する 事後：「伝える」を表現する		講義20分 グループワーク70分	
7	「伝える」を表現する ③					事前：「伝える」を表現する 事後：なし		講義20分 グループワーク70分	
8	プレゼンテーション ① テーマとストーリー					事前：なし 事後：テーマとストーリー		講義30分 グループワーク60分	
9	プレゼンテーション ② ストーリーと構成					事前：テーマとストーリー 事後：ストーリーと構成		講義30分 グループワーク60分	
10	プレゼンテーション ③ 資料の作成					事前：なし 事後：資料の作成		講義90分	
11	プレゼンテーション実践 ①					事前：プレゼンテーション 事後：ストーリーと資料作成		プレゼンテーション 90分	
12	プレゼンテーション実践 ②					事前：プレゼンテーション 事後：ストーリーと資料作成		プレゼンテーション 90分	
13	プレゼンテーション実践 ③					事前：プレゼンテーション 事後：ストーリーと資料作成		プレゼンテーション 90分	
14	プレゼンテーション実践 ④					事前：プレゼンテーション 事後：ストーリーと資料作成		プレゼンテーション 90分	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義90分	
教本： 資料を配布するので、教科書は指定しません。					参考文献： 適宜、指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、授業中の課題、定期試験（60%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 自分も相手も大切にする表現方法を学んでください。									
オフィスアワー： 初回の授業で教えます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本史 (History of Japan)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国際化が進む一方で、日本の歴史と文化を理解する必要性は、ますます高まっています。本講義では、当時の政治、経済、文化をふりかえりながら、その時代に生きた人々がどのような考えをもっていたのか理解を深めていきます。									
授業目標： 原始から近現代にかけて、日本史の基礎知識を習得し、理解する力を養うことを目的としています。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
2	古代の日本と邪馬台国					事前：なし 事後：縄文・弥生・古墳時代		講義 90 分	
3	聖徳太子と十七条憲法					事前：縄文・弥生・古墳時代 事後：飛鳥時代		講義 90 分	
4	遣唐使と鑑真					事前：飛鳥時代 事後：奈良時代		講義 90 分	
5	貴族の生活と国風文化					事前：奈良時代 事後：平安時代		講義 90 分	
6	平清盛と日宋貿易					事前：平安時代 事後：平安時代後期		講義 90 分	
7	源頼朝と義経					事前：平安時代後期 事後：鎌倉時代		講義 90 分	
8	織田信長と戦国乱世					事前：南北朝・室町時代 事後：室町・安土桃山時代		講義 90 分	
9	豊臣秀吉と朝鮮出兵					事前：安土桃山時代 事後：安土桃山時代		講義 90 分	
10	江戸幕府の成立と島原の乱					事前：江戸時代前期 事後：江戸時代前期		講義 90 分	
11	開国と幕末の動乱					事前：江戸時代中期 事後：江戸時代後期		講義 90 分	
12	明治維新と文明開化					事前：江戸時代後期 事後：明治時代		講義 90 分	
13	戦争の近代 ①第一次世界大戦とドイツ人捕虜					事前：明治時代 事後：明治・大正時代		講義 90 分	
14	戦争の近代 ②第二次世界大戦の背景にあるもの					事前：明治・大正・昭和時代 事後：昭和時代		講義 90 分	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90 分	
教本： 初回の授業で教えます。					参考文献： 「詳説 日本史研究」山川出版社				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40％）、授業中の課題、定期試験（60％）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 文字だけで判断するのではなく、歴史の本質を理解しよう心がけてください。									
オフィスアワー： 初回の授業で教えます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本史 (History of Japan)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 最初に、高校まで学んできた日本の歴史はどのような史料の調査、研究により明らかにされてきたのかを明らかにする。その上で、日本の歴史の様々な変革期について、その原因と過程、結果について史・資料を示し分かりやすく説明。そして現代に近づくにつれ、今の我々の国や社会の仕組、暮らし、文化のあり方が、どのような形で変容してきたのかを示し、自分たちの問題として考える。									
授業目標： 日本の歴史が明らかにされた背景には古文書史料、考古資料等の存在があることを学ぶ。日本史が世界史と連動していることを学び、歴史を知ることが、今後の人生や様々な活動での判断の基になることを理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方の説明。歴史学研究の方法と日本の歴史はどのようにに判明してきたのか。そのエビデンスとしての考古資料、古文書等について					事前：高校日本史教科書を読んでおく。 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
2	旧石器時代～縄文時代のはじまり 日本列島に人間がやってきた頃とその後について、遺跡、遺物から					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
3	縄文時代 遺跡、遺物から見る世界的にも希な自然との共生を果たした縄文時代の暮らしについて					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認			
4	弥生時代 稲作の拡大、金属器の使用についての意味と国家の成立。卑弥呼の生きた時代とは					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
5	古墳時代 様々な古墳建築造の意味。大陸からの文化の流入					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
6	飛鳥時代 仏教の受容と朝鮮半島、中国王朝との交流について					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
7	奈良時代・平安時代 遣唐使と中国文化の導入。 貴族の生活と荘園 一般の人々の暮らし					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
8	武家政権の誕生と展開 平氏政権から源頼朝の鎌倉幕府成立 朝廷と鎌倉幕府の関係 元寇の持つ意味					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
9	室町時代 南北朝の動乱と室町幕府の成立。関東から始まった戦国時代 倭寇の展開と日明貿易					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
10	安土・桃山時代 戦国大名の争いと、織田信長そして豊臣秀吉の覇権。鉄砲とキリスト教の伝来					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
11	江戸幕府の成立と都市 江戸のインフラ整備と発展					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
12	江戸時代の社会、生活と文化 技術革新と海外からの文化、技術の相互交流について。レポートの指示					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
13	江戸時代の海外交流 陶磁器や漆器、和服などの輸出と、生活文化への相互影響について					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
14	幕末の動乱から明治政府誕生 ペリー来航から幕末動乱、そして江戸開城、戊辰戦争。西南の役					事前：講義の時代について年代・概要を調べる 事後：配付資料の内容確認		講義(90分)	
15	まとめ 全体を纏める講義。レポートの概要について発表					事前：レポートの準備と発表準備 事後：レポートの準備		講義(40分)・ 演習(50分)	
教本： 特になし。ほぼ毎回資料プリントを配布する。					参考文献： 講義ごとに示す。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
学生へのアドバイス： 毎回配布する資料プリントで復習すること。小テスト、定期試験はそのプリントから出題する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本風俗史（Japanese History of Manners and Customs）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 1. 風俗学とはなにかを理解する。 2. 風俗の歴史について、特に日本の風俗史について共に学び、考える。 3. 「風俗」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 日本の風俗の成り立ちやその基本的な衣食住を理解し、また、日本の風俗文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 風俗とは。日本風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	（通史）風俗学と風俗史について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	（古代）古代人の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	（古代）古代人の産業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	（中古）平安時代の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	（中古）平安時代の信仰、陰陽師と加持祈祷について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	（中世）禪とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	（近世）近世の風俗と海外との交流について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	近現代における日本の風俗（衣食住の展開）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	近代日本における風俗について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	風俗の伝統とモダニズムについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 授業時に指示する。 1. 『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂 竹内誠編著 2. 『江戸文化の見方』（角川選書）角川学芸出版 2010年 竹内誠編著				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）・期末試験（50%）。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本文化演習（Seminar on Japanese Culture）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 『万葉集』に記された和歌を対象として授業を行う。本文の的確な読み、解釈を行い、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、日本の和歌の成立の背景や著名な歌人などの歌を読みながら、古代人の心を捉える。									
授業目標： ・上代の和歌を正確に読み、説明することができる。 ・注釈書を比較し、適切な解釈を行うことができる。 ・『万葉集』の特質について考察を加えることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、口承から書承へ					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
2	律文の発生とは					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
3	万葉集の概説（四期分類と各巻解説）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
4	雄略天皇の巻頭歌と大伴家持の最終歌					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
5	雑歌・相聞・挽歌					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
6	巻 1					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
7	巻 1					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
8	巻 2					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
9	巻 3					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
10	巻 4、5、6、7					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
11	巻14、16					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
12	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
13	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
14	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
15	纏め					事前：授業内容の事前纏め 事後：纏めの振り返り		講義 90 分	
教本： なし、プリントを配布 石上七鞘著『古代伝承文芸序説』桜楓社					参考文献： 石上七鞘著『古代伝承文芸論』おうふう				
成績評価の方法、評価基準：到達目標に達成したかを評価する。 授業参加状況等（30％）、テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習をして休まずに出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本文化演習 A（Seminar on Japanese Culture A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 『万葉集』に記された和歌を対象として授業を行う。本文の的確な読み、解釈を行い、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、日本の和歌の成立の背景や著名な歌人などの歌を読みながら、古代人の心を捉える。									
授業目標： ・上代の和歌を正確に読み、説明することができる。 ・注釈書を比較し、適切な解釈を行うことができる。 ・『万葉集』の特質について考察を加えることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、口承から書承へ					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
2	律文の発生とは					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
3	万葉集の概説（四期分類と各巻解説）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
4	雄略天皇の巻頭歌と大伴家持の最終歌					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
5	雑歌・相聞・挽歌					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
6	巻 1					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
7	巻 1					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
8	巻 2					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
9	巻 3					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
10	巻 4、5、6、7					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
11	巻14、16					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
12	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
13	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
14	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
15	纏め					事前：授業内容の事前纏め 事後：纏めの振り返り		講義 90 分	
教本： なし、プリントを配布 石上七穂著『古代伝承文芸序説』桜楓社					参考文献： 石上七穂著『古代伝承文芸論』おうふう				
成績評価の方法、評価基準：到達目標に達成したかを評価する。 授業参加状況等（30％）、テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習をして休まずに出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本文化演習 B（Seminar on Japanese Culture B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 『古事記』に記された神話を対象として授業を行う。本文の的確な読み、解釈を行い、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、神話成立の背景や各神話の持つ意味)、伝承者の心を捉える。									
授業目標： ・ 上代の文献を正確に読み、説明することができる。 ・ 注釈書を比較し、適切な解釈を行うことができる。 ・ 『古事記』の特質、研究について考察することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、口承から書承へ					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
2	神とは					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
3	古事記の概説					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
4	高天の原はどこに					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
5	おのころ島					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
6	天皇の生まれ変わり					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
7	アエノコト					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
8	アマテラスの岩戸隠れ（中臣と忌部）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
9	歴代天皇と雄略天皇					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
10	海幸・山幸					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
11	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
12	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
13	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
14	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
15	纏め					事前：授業内容の事前纏め 事後：纏めの振り返り		講義 90 分	
教本： なし、プリントを配布 石上七鞘著『古代伝承文芸論』おうふう 参考文献： 石上七鞘著『日本の原点』マイナビ新書 石上七鞘著『古代伝承文芸序説』桜楓社									
成績評価の方法、評価基準：到達目標に達成したかを評価する。 授業参加状況等（30％）、テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習をして休まずに出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本文化概論（Introduction to Japanese Culture）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石 井 み ど り								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： おもに近現代の歴史をふりかえり、身近な話題をとりあげながら、日本人の心の一端を模索していきます。授業ではグループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを取り入れて、理解を深められるようにしています。									
授業目標： 日本人の心はどのように形成されてきたのでしょうか。日本人の心を探求する上で、日本文化を理解することは欠かせません。日本文化の知識を習得し、その背景にあるものは何か、理解を深めることを目的としています。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	日本人の名前 名前の由来					事前：名前の由来 事後：なし		講義 50分 ディスカッション 40分	
3	学校の文化 制服と校則					事前：制服と校則 事後：なし		講義 50分 ディスカッション 40分	
4	「母の日」と「父の日」① 歴史と文化					事前：なし 事後：「父の日」		講義 60分 グループワーク 30分	
5	「母の日」と「父の日」② 「父の日」のマーケティング					事前：「父の日」 事後：なし		講義 30分 グループワーク 60分	
6	学校の怪談 都市伝説					事前：学校の怪談、都市伝説 事後：なし		講義 30分 グループワーク 60分	
7	家族と家庭料理 ① 家庭料理とは何か					事前：家庭料理 事後：家庭料理		講義 60分 ディスカッション 30分	
8	家族と家庭料理 ② さまざまな家庭料理					事前：家庭料理 事後：なし		講義 30分 グループワーク 60分	
9	音楽 J ポップの世界					事前：音楽 J ポップ 事後：なし		講義 30分 グループワーク 60分	
10	クールジャパン ① アニメ 漫画 ゲーム					事前：なし 事後：アニメ、漫画、ゲーム		講義 30分 グループワーク 60分	
11	クールジャパン ② アニメ 漫画 ゲーム					事前：アニメ、漫画、ゲーム 事後：なし		講義 30分 グループワーク 60分	
12	こどもの遊びと文化					事前：こどもの遊び 事後：なし		講義 60分 ディスカッション 30分	
13	若者世代論					事前：若者世代論 事後：なし		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	日本人の気質 恋愛観					事前：日本人の気質、恋愛観 事後：なし		講義 60分 ディスカッション 30分	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本：資料を配布するので、教科書は指定しません。 参考文献：適宜、指示します。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、授業中の課題、定期試験（60%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 文字だけで判断するのではなく、日本文化の本質を理解するよう心がけてください。									
オフィスアワー： 初回の授業で教えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本文化研究（Japanese Culture Studies）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： この授業の目的は、とすれば観光やエキゾチズムにのみ目の回りがちな沖縄文化を当事者の視点から捉えてみることです。皆さんのほとんどが「遊びに行くところ」と考えているかもしれません。しかし、当地の生活実感から生活世界を考えるなら、本土とも微妙に異なる世界が出現します。多面から考えてみましょう。									
授業目標： ヒトが身体を通じて、どのように「世界」と関わっているのかを考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	沖縄文化の範囲					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
2	沖縄文化のステレオタイプと実際					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	沖縄文化のステレオタイプと実際 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	文化人類学からみた沖縄文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	沖縄の社会と文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	沖縄の社会と文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	始祖求心的文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	始祖求心的文化の現代版					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	民俗文化の創造					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	沖縄文化と「境界」					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	祖霊観と他界観					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	〈ニライカナイ〉の発想					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	沖縄と防衛問題					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	沖縄はパラダイスか					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 使用しません					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本文学史（Japanese Culture）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 『古事記』に記された神話を対象として授業を行う。本文の的確な読み、解釈を行い、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、神話成立の背景や各神話の持つ意味)、伝承者の心を捉える。									
授業目標： ・ 上代の文献を正確に読み、説明することができる。 ・ 注釈書を比較し、適切な解釈を行うことができる。 ・ 『古事記』の特質、研究について考察することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、口承から書承へ					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
2	神とは					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
3	古事記の概説					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
4	高天の原はどこに					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
5	おのころ島					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
6	天皇の生まれ変わり					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
7	アエノコト					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
8	アマテラスの岩戸隠れ（中臣と忌部）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
9	歴代天皇と雄略天皇					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
10	海幸・山幸					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
11	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
12	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
13	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
14	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
15	纏め					事前：授業内容の事前纏め 事後：纏めの振り返り		講義 90 分	
教本： なし、プリントを配布 石上七穂著『古代伝承文芸論』おうふう					参考文献： 石上七穂著『日本の原点』マイナビ新書 石上七穂著『古代伝承文芸序説』桜楓社				
成績評価の方法、評価基準：到達目標に達成したかを評価する。 授業参加状況等（30％）、テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習をして休まずに出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本文学演習（Seminar on Japanese Literature）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 古典三大随筆に記された作品を対象として授業を行う。本文の的確な読み、解釈を行い、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、随筆の背景や其のもつ意味を捉える。									
授業目標： ・随筆を正確に読み、説明することができる。 ・注釈書を比較し、適切な解釈を行うことができる。 ・随筆の特質について考察することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	随筆文学の特徴について学ぶ					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
2	枕草子、春はあけぼの（冒頭）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義と演習	
3	枕草子、にくきもの（28段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
4	枕草子、如月つごもり頃に（106段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
5	枕草子、美しきもの（151段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
6	枕草子、殿などおわしまさで（223段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
7	枕草子、9 月20日あまりのほど（228段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
8	方丈記、ゆく河の流れ、閑居のきび					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
9	徒然草、徒然なるままに（冒頭）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
10	徒然草、おりふしの移り変はるこそ（19段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
11	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
12	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
13	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
14	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
15	纏め					事前：授業内容の事前纏め 事後：纏めの振り返り		講義 90 分	
教本： なし、プリントを配布 石上七鞘著『古代伝承文芸序説』桜楓社 参考文献： 石上七鞘著『古代伝承文芸論』おうふう									
成績評価の方法、評価基準：到達目標に達成したかを評価する。 授業参加状況等（30％）、テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習をして休まずに出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本文学演習 A (Seminar on Japanese Literature A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 古典三大随筆に記された作品を対象として授業を行う。本文の的確な読み、解釈を行い、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、随筆の背景や其のもつ意味を捉える。									
授業目標： ・随筆を正確に読み、説明することができる。 ・注釈書を比較し、適切な解釈を行うことができる。 ・随筆の特質について考察することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	随筆文学の特徴について学ぶ					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
2	枕草子、春はあけぼの（冒頭）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義と演習	
3	枕草子、にくきもの（28段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
4	枕草子、如月つごもり頃に（106段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
5	枕草子、美しきもの（151段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
6	枕草子、殿などおわしまさで（223段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
7	枕草子、9 月 20 日あまりのほど（228段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
8	方丈記、ゆく河の流れ、閑居のきび					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
9	徒然草、徒然なるままに（冒頭）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
10	徒然草、おりふしの移り変はるこそ（19段）					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、 演習 45 分	
11	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
12	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
13	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
14	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
15	纏め					事前：授業内容の事前纏め 事後：纏めの振り返り		講義 90 分	
教本： なし、プリントを配布 石上七鞘著『古代伝承文芸序説』桜楓社					参考文献： 石上七鞘著『古代伝承文芸論』おうふう				
成績評価の方法、評価基準：到達目標に達成したかを評価する。 授業参加状況等（30％）、テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習をして休まずに出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年次半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本文学演習 B（Seminar on Japanese Literature B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 日本の古典『源氏物語』に記された作品を対象として授業を行う。本文の的確な読み、解釈を行い、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、作品成立の背景や各神話の持つ意味)、伝承者の心を捉える。									
授業目標： ・中古の物語文学を読み、適切な解釈を行うことができる。 ・『源氏物語』の特質、研究について考察することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	物語文学の発生					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
2	源氏物語の概説					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
3	桐壺の巻 1					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
4	桐壺の巻 2					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
5	桐壺の巻 3					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
6	桐壺の巻 4					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
7	桐壺の巻 5					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
8	桐壺の巻 6					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
9	桐壺の巻 7					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
10	桐壺の巻 8					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
11	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
12	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
13	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
14	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
15	纏め					事前：授業内容の事前纏め 事後：纏めの振り返り		講義 90 分	
教本： なし、プリントを配布 石上七穂著『古代伝承文芸序説』桜楓社									
参考文献： 石上七穂著『古代伝承文芸論』おうふう									
成績評価の方法、評価基準：到達目標に達成したかを評価する。 授業参加状況等（30％）、テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習をして休まずに出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本文学概論（Intoroduction to Japanese Literature）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七 鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 日本文学の生成過程とその変容の原動力について見極める。古典文学はどのように発生し、伝播し、波及したか作品に即して理解する。また古典文学が実際にどのように読まれてきたのかについて、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『枕草子』『徒然草』『百人一首』といった古典を通して文学を考える。日本文学の理念と変遷を考え、日本の代表的な文学作品に触れながら、作品の構想と表現、作者と時代背景などを含めて、文学研究の方法と態度を養う。作品の背景に横たわる問題点を指摘しながら思索を深める訓練をする。作品を理解し、日本文化における文学の影響力と、文学の果たした役割を理解する。									
授業目標： 日本文学（物語・随筆・和歌など）の概要を理解する。 1．日本文学の形態や表現の特徴を概観し、深く読み進めるために必要な方法や基礎知識を習得する。 2．日本文学の生成と展開を把握し、日本文学の全体像を理解する。 3．各時代における日本文学の新展開のダイナミズムが、いつ、どのようにして生まれ、どのように伝播、波及して現代に至ったかを、具体的な文学者や作品に即して深く理解する。 4．日本文学が、日本文化全体の中において果たしてきた役割を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、日本文学の領域について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	日本文学の発生と場（文学以前から文学へ、神と人）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	日本文学の形態と様式について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	文学的発想とその流れについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	伝承・創作とその享受について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	構想と表現（言葉と心、主題と描写、作品とモデル、事実と虚構）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	日本文学の環境 1（歴史と社会）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	日本文学の環境 2（自然と風土）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	日本文学の理念と変遷 1、上代文学の理念について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	日本文学の理念と変遷 2、中古文学の理念について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	日本文学の理念と変遷 3、中世文学の理念について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	日本文学の理念と変遷 4、近世文学の理念について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	日本文学の素材（自然・旅・離別）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	日本文学と諸文化（国語史・宗教・風俗・民俗）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	日本文学研究法のまとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 1．『日本の原点』石上七鞘著、マイナビ新書、¥830（税抜き） 2．『日本文学史の基礎知識』秋山虔ほか著、有斐閣ブックス、¥2,520 3．『日本古典文学大系』（岩波書店）『日本古典文学全集』（小学館）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（15%）、小テスト（15%）、授業内容への参加度（10%）、試験（60%）などで評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本文学（Japanese Literature）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ・ 授業は、俳句を創作し、鑑賞・批評を基に創作活動を中心におこなう。 ・ 合評会による討議により、発想や技法を学ぶと共に、教師の講評でさらに深める。									
授業目標： ・ 現代俳句について理解し、言語感覚を磨く ・ 合評会により、鑑賞眼及び創作の発想・技術を習熟する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現代俳句（オリエンテーション）					事前 なし 事後：		講義	
2	現代俳句とは何か（季語等について）					事前：なし 事後：復習		鑑賞＋語り合い	
3	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
4	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
5	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後自作を推敲する：		鑑賞＋合評会	
6	松尾芭蕉の推敲					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		講義＋討論	
7	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
8	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
9	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
10	吟行＋選句					事前：なし 事後：なし		吟行＋句会	
11	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
12	俳句創作＋合評					事前：俳句を2句作ってくる 事後：自作を推敲する		鑑賞＋合評会	
13	句集づくり ①					事前： 自作句から6句選ぶ 事後：最終推敲		句集づくり	
14	句集づくり ②					事前：ワープロで整えてくる 事後：推敲する		句集づくり	
15	まとめ 文芸「森の里」にまとめる。					事前：なし 事後：なし		鑑賞会	
教本： 季語集（冬・新年）授業で紹介し購入する。					参考文献： その都度授業中に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、俳句創作（60％）、合評力（20％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 俳句を楽しみ、日本の文化を身に着ける授業です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本文学史（Japanese Literary History）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 物語の発生からその展開について解説し、作品と作品を生み出した人間、それを取り囲む社会との関係を歴史的に考察する。講義のほか、学生の研究発表の形式を採る。									
授業目標： 日本文学史に関する基礎的知識を時代別と系統別の両方から理念をふまえて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、祭式と祝詞。「神観念」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	古代文学、神話と歴史。「言霊」「他界観」「語り部」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	古代文学、記紀歌謡と和歌。「まこと」（直、清、明）「ますらをぶり」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	中古文学、「たをやめぶり」「雅」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	中古文学「あはれ」「をかし」「王朝女流文学」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	中古文学 「たけ高し」「とは白し」「余情」「艶」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	中世文学「幽玄」「有心」「無心」「わび」「枯淡」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	近世文学「さび」「軽み」「いき」「粋」「通」「野暮」「をかしみ」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	系統別文学史「史書」「物語」「草子」「読本」「勸善懲悪」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	系統別文学史「説話」「小説」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	系統別文学史「和歌」「連歌」「俳諧」を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	系統別文学史「日記」「紀行」と学生のプレゼンを行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	系統別文学史「随筆」「評論」と学生のプレゼンを行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	系統別文学史「芸能」と学生のプレゼンを行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	学生のプレゼンを行う。 まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
教本： なし、プリント配布					参考文献： 『日本の原点』石上七鞘著 マイナビ新書 ￥873				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト（15％） 授業への参画度（25％） 試験（60％）。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー：水曜日昼休み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本文化研究 A (Japanese Culture Studies A)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 1. 風俗学とはなにかを理解する。 2. 風俗の歴史について、特に日本の風俗史について共に学び、考える。 3. 「風俗」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 日本の風俗の成り立ちやその基本的な衣食住を理解し、また、日本の風俗文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 風俗とは。日本風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	（通史）風俗学と風俗史について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	（古代）古代人の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	（古代）古代人の産業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	（中古）平安時代の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	（中古）平安時代の信仰、陰陽師と加持祈祷について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	（中世）禪とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	（近世）近世の風俗と海外との交流について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	近現代における日本の風俗（衣食住の展開）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	近代日本における風俗について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	風俗の伝統とモダニズムについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 授業時に指示する。 1. 『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂 竹内誠編著 2. 『江戸文化の見方』（角川選書）角川学芸出版 2010年 竹内誠編著				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）・期末試験（50%）。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席しないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本文化研究 A（風俗史）（Japanese Studies A（History of Manners and Customs））							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 1. 風俗学とはなにかを理解する。 2. 風俗の歴史について、特に日本の風俗史について共に学び、考える。 3. 「風俗」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 日本の風俗の成り立ちやその基本的な衣食住を理解し、また、日本の風俗文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 風俗とは。日本風俗の流れを学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	（通史）風俗学と風俗史について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	（古代）古代人の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	（古代）古代人の産業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	（中古）平安時代の生活について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	（中古）平安時代の信仰、陰陽師と加持祈祷について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	（中世）禪とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	（近世）近世の風俗と海外との交流について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	近現代における日本の風俗（衣食住の展開）について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	近代日本における風俗について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	風俗の伝統とモダニズムについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 授業時に指示する。 1. 『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂 竹内誠編著 2. 『江戸文化の見方』（角川選書）角川学芸出版 2010年 竹内誠編著				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）・期末試験（50%）。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本文化研究 B（Japanese Culture Studies B）							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要：（近世文化） 1．江戸学とは何かを理解する。 2．江戸の歴史と文化について学び、考える。 3．「江戸」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 江戸の風俗・生活を伝える『絵本江戸風俗往来』『都風俗化粧伝』を購読し、いわゆる「江戸学」の出発点となる知識の整理を試みるとともに、史料収集方法や活用方法の基礎力を養うことを目標とする。また、日本近代史を学ぶうえで重要な資料・文献などの紹介も行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説をする。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	江戸と上方について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	江戸の衣と住まいについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	江戸の食を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	江戸の飢饉を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	享保・寛政・天保の改革について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	江戸時代の交通について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	江戸時代の農業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	江戸の年中行事について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	江戸の信仰、富士信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	江戸の信仰、伊勢信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	国学と国体について知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	江戸から明治へ、大政奉還について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 1．石上七鞘『日本の原点』マイナビ新書 2．『江戸学事典』弘文堂				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）・期末試験（50%）。仔細は授業時に明示する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本文化研究 B（近世文化）（Japanese Studies B（Japanese Early Modern Culture））							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要：（近世文化） 1．江戸学とは何かを理解する。 2．江戸の歴史と文化について学び、考える。 3．「江戸」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 江戸の風俗・生活を伝える『絵本江戸風俗往来』『都風俗化粧伝』を購読し、いわゆる「江戸学」の出発点となる知識の整理を試みるとともに、史料収集方法や活用方法の基礎力を養うことを目標とする。また、日本近代史を学ぶうえで重要な資料・文献などの紹介も行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 江戸時代の文化について概説をする。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	江戸と上方について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	江戸の衣と住まいについて学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	江戸の食を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	江戸の飢饉を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	享保・寛政・天保の改革について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	江戸時代の交通について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	江戸時代の農業について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	江戸の年中行事について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	江戸の信仰、富士信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	江戸の信仰、伊勢信仰について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	国学と国体について知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	江戸から明治へ、大政奉還について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 1．石上七鞘『日本の原点』マイナビ新書 2．『江戸学事典』弘文堂				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）・期末試験（50%）。仔細は授業時に明示する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	日本文化研究 C （日本の宗教）（Japanese Studies C （Japanese Religion））						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 1. 宗教学とはなにかを理解する。 2. 日本の宗教の歴史について、特に日本の宗教について共に学び、考える。 3. 「日本の宗教」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 日本宗教の成り立ちやその基本的な思想・世界観を理解し、また、日本宗教が文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、 宗教とは。日本宗教の形成と展開について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講 義	
2	（通史）宗教の風景について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	（古代）神々の世界 神社の歴史と役割について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	（古代）儒教と道教と仏教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	（中古）平安時代の宗教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	（中古）平安仏教〔最澄・空海〕について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	（中世）鎌倉仏教、法然・親鸞・栄西・道元・日蓮について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	（中世）禅とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	（近世）近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	（近世）国学と国体について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	近代日本における政教分離の形成について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	一神教と多神教。学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	宗教の未来。学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講 義	
教本： 授業時にプリント配付。					参考文献： 1. 末木文美士『日本宗教史』岩波書店、2006年（岩波新書） 2. 山折哲雄監修『宗教の事典』朝倉書店				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）と試験（50%）などで評価する。仔細は授業時に明示する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本文化研究 D（万葉の時代と文化）（Japanese Studies D（The times and culture of MANNYOUSYU））							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 万葉の時代といえ、日本史の時代区分でいえば古代といえる。万葉集には、時代が判明している仁徳天皇から奈良時代末期までである。その時代の状況や文化を万葉集の歌を通して理解しながら、学生のプレゼンテーションを交えながら進める。									
授業目標： 万葉の時代と文化を理解する。時代背景としての宗教、政治、生活、民俗を理解する。また、万葉集の作家と作品について学ぶ。また作者未詳歌についても学び、それらの作品の背景を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本の古代史とは何かについて学ぶ。					事前：なし 事後：授業内容の整理		講義	
2	万葉集とは何かについて学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
3	三大部立（雑歌、相聞、挽歌）について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
4	巻頭歌と最後の歌について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
5	額田王について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
6	柿本人麻呂について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
7	山部赤人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
8	高市黒人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
9	山上憶良について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
10	大伴旅人について知る。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
11	大伴家持と万葉集の成立について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
12	東歌・防人歌・伝説歌について学ぶ。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
13	学生のプレゼンを行う。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		演習	
14	学生のプレゼンを行う。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		演習	
15	纏めをする。					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
教本： プリント配布					参考文献： 授業時に紹介				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート・発表等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず出席すること。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本文化研究 E (東アジアの交流と文化) (Japanese Studies E (Interchange and Culture of East Asia))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要：日本文化研究 E (東アジアの交流と文化) の授業では、わかりやすい講義と口頭 Q & A と討論会とレポートなどのアクティブ・ラーニング (主体的・対話的学び) によって、自己肯定感を高め、人格形成 (モラルの向上) をさせ、人間力 (力強く生きていくための力) を磨く。東アジアの文化つまり台湾の儒教思想を論じ、道徳心を高め、人徳者となる道を指し示す。生きる力 (自ら考えて問題を解決する力、他者を思いやる心、健康、知・徳・体) を育む。私伊藤幹彦の台湾居住 16 年 (うち 3 年半で国立台湾大学で博士号を取得、うち 11 年台湾の大学で准教授) の経験から学んだ台湾人の心の中にある儒教思想も説明する。30 年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっている、異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論 (台湾文化共生論) を説明する。									
授業目標：授業目標：孔子の誕生以来、『論語』や『孟子』などを通して、約 2500 年間にわたって、中国の儒教思想は、家庭教育と学校教育と社会教育などを通じて、現在の台湾人や中国人の心に受け継がれているので、これらの東アジアの交流と文化 (台湾の文化、台湾の儒教思想) の概念の習得を目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)				授業形態	
1	日本文化研究 E (東アジアの交流と文化) (台湾の儒教思想、台湾の仏教思想) の説明をする。自己紹介をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。			事前：東アジアの交流と文化の下読みをする。 事後：東アジアの交流と文化のポイントをノートに書く。				講義説明 40 分。口頭 Q & A 10 分。 アンケート 10 分。自己紹介 30 分。	
2	台湾の思想 (台湾の輪廻思想、台湾の縁起思想) の説明をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。			事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントをノートに書く。				講義説明 20 分。口頭 Q & A 60 分。 アンケート 10 分。	
3	孔子の生涯と孟子の生涯の説明をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。			事前：孔子の生涯と孟子の生涯の下読みをする。 事後：孔子の生涯と孟子の生涯のポイントをノートに書く。				講義説明 20 分。口頭 Q & A 60 分。 アンケート 10 分。	
4	儒教道徳の五倫五常 (父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目) の説明をする。			事前：五倫五常の下読みをする。 事後：五倫五常のポイントをノートに書く。				講義説明 80 分。口頭 Q & A 10 分。	
5	『論語』(1) (『学ぶ』とは何か) の説明をする。口頭 Q & A をする。			事前：『論語』(1) の下読みをする。 事後：『論語』(1) のポイントをノートに書く。				講義説明 80 分。口頭 Q & A 10 分。	
6	『論語』(2) (幸福になるために) の説明をする。口頭 Q & A をする。			事前：『論語』(2) の下読みをする。 事後：『論語』(2) のポイントをノートに書く。				講義説明 80 分。口頭 Q & A 10 分。	
7	『論語』(3) (人徳者と知識人) の説明をする。口頭 Q & A をする。			事前：『論語』(3) の下読みをする。 事後：『論語』(3) のポイントをノートに書く。				講義説明 80 分。口頭 Q & A 10 分。	
8	『論語』(4) (人間を磨く) の説明をする。口頭 Q & A をする。			事前：『論語』(4) の下読みをする。 事後：『論語』(4) のポイントをノートに書く。				講義説明 80 分。口頭 Q & A 10 分。	
9	『論語』(5) (若者との対話) の説明をする。口頭 Q & A をする。			事前：『論語』(5) の下読みをする。 事後：『論語』(5) のポイントをノートに書く。				講義説明 80 分。口頭 Q & A 10 分。	
10	『論語』(6) (人生論) の説明をする。口頭 Q & A をする。ディスカッション (どのような人生をおくるべきか) をする。			事前：『論語』(6) の下読みをする。 事後：『論語』(6) のポイントをノートに書く。				講義説明 40 分。ディスカッション 40 分。アンケート 10 分。	
11	『論語』(7) (孔子の生き方) の説明をする。口頭 Q & A をする。			事前：『論語』(7) の下読みをする。 事後：『論語』(7) のポイントをノートに書く。				講義説明 80 分。口頭 Q & A 10 分。	
12	『論語』(8) (愛と死と孝) の説明をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。			事前：『論語』(8) の下読みをする。 事後：『論語』(8) のポイントをノートに書く。				講義説明 80 分。口頭 Q & A 10 分。	
13	『孟子』(1) (梁惠王、公孫丑、滕文公、離婁) の説明をする。口頭 Q & A をする。			事前：『孟子』(1) の下読みをする。 事後：『孟子』(1) のポイントをノートに書く。				講義説明 80 分。口頭 Q & A 10 分。	
14	『孟子』(2) (万章、告子、尽心) の説明をする。口頭 Q & A をする。			事前：『孟子』(2) の下読みをする。 事後：『孟子』(2) のポイントをノートに書く。				講義説明 80 分。口頭 Q & A 10 分。	
15	日本文化研究 E (東アジアの交流と文化) のまとめの説明をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。			事前：東アジアの交流と文化のまとめの下読みをする。 事後：東アジアの交流と文化のまとめのポイントをノートに書く。				講義説明 70 分。口頭 Q & A 10 分。 アンケート 10 分。	
教本： プリントを配布する。			参考文献： 中国文化事典編集委員会(編)、竹田晃(編)、『中国文化事典』、丸善出版、2017 年、¥22,000。 加地伸行、『増補版 論語』、講談社、2009 年、¥1,793。 貝塚茂樹、『孟子』、講談社、2004 年、¥1,155。						
成績評価の方法、評価基準： 第 15 回目の授業時しめきりの期末レポート (40%)、授業への寄与度や授業態度などの平常点 (60%)。									
学生へのアドバイス： 儒教思想の授業を通じて、君の徳性を高め、儒教思想の知識を実践に生かし、君の人間関係をよくしてください。授業を通して学習理論の自己効力感 (self-efficacy、セルフ・エフィカシー、「できるという信念があれば、必ずできるようになる」と自己肯定感で学生の皆さんのやる気を引き出し、成績を高める。頭脳の知性 (東アジアの交流と文化の専門的知識) と感情の知性 (人格形成) を学ばせ、人間力 (力強く生きていく力、目標達成力) を育成する。1. 東アジアの交流と文化の知識向上、2. 自己効力感 (私はできるというプラス思考) 向上、3. 人間力 (力強く生きていく力、目標達成力) 向上。アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。儒教思想の目的は、人間関係をよくすることにあるから、儒教思想を応用すれば、君の人間関係をよくすることができる。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本文化研究 F（現代社会と文化）(Japanese Studies F)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代社会の文化の一つとして学校教育をテーマとする。学校教育は自分の体験があり、ニュースで取り上げられることも多い。そこで、日本の学校教育のよさや問題点を見出し、改めて教育の意義や日本社会への影響について考えを深めていく。共通テーマでは自分の考えを明確にして意見交換をしたり、自由テーマでは関心のある課題を追及したりする主体的な学びを重ねていく。事実を確かにとらえて多様な考えを認め合う授業を展開する。									
授業目標： ①日本の学校教育の制度や教育内容、今日的な課題について講義を聞いたり調べたり発表し合ったりして自分の考えを深める ②グループワークや意見交流、質疑応答に対して主体的に取り組む ③自由課題では、自分の興味関心からテーマを選択し事実に基づいたレポートを作成し説得力のある表現を工夫する									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	これまでの学校生活を振り返って自分の成長に役立ったことや疑問に思ったことなどを討議する					事前：なし 事後：ノート整理		講義(30分) 討議(60分)	
2	子ども・保護者・教師(学校)の視点で今日日本の教育が抱える課題についてグループ討議する					事前：ニュース収集 事後：ノート整理		講義(45分) 討議(45分)	
3	学校教育に関する法律と学習指導要領に基づく日本の学校制度を講義によって理解する受講者の関心から共通する事例を決める					事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理		講義(90分)	
4	学校の課題「体罰」(例) 報道や体験をもとに何が問題なのかを討議する					事前：ニュース収集 事後：データを収集		講義(45分) 討議(45分)	
5	学校の課題「体罰」 データをもとに体罰の社会的背景や人々の意識について討議する					事前：データを収集 事後：対策をまとめる		講義(45分) 討議(45分)	
6	学校の課題「体罰」 体罰の根絶にはどのような対策や考え方が必要かを討議する					事前：対策をまとめる 事後：レポート①		講義(45分) 討議(45分)	
7	体罰についてのレポート発表をする 学校の課題「特別支援教育」障がいの種類について講義を聞く					事前：レポート① 事後：資料収集		発表(30分) 討議(60分)	
8	学校の課題「特別支援教育」(例) インクルーシブ教育の施策、実態等を調べて討議する					事前：資料収集 事後：資料収集		講義(45分) 討議(45分)	
9	学校の課題「特別支援教育」 インクルーシブ教育先進国の事例を視聴し、日本の在り方を討議する					事前： 事後：レポート②		講義(45分) 討議(45分)	
10	インクルーシブ教育のレポートを発表する 学校の課題「日本型教育と海外」 教育の輸出について講義を聞く、					事前：レポート② 事後：資料収集		発表(30分) 講義(60分)	
11	学校の課題「自由課題」 最近の教育・子どもに関する問題を洗い出しテーマを決める					事前：資料収集 事後：資料収集		講義(30分) 個人演習(60分)	
12	学校の課題「自由課題」 アウトラインを作成する					事前：資料収集 事後：資料読み		個人演習(90分)	
13	学校の課題「自由課題」 各自の課題の執筆をすすめる					事前：執筆を始める 事後：執筆する		個人演習(90分)	
14	学校の課題「自由課題」 発表準備（はじめに、要点、考察）をする					事前：資料 事後：発表内容の確認		個人演習(90分)	
15	学校の課題「自由課題」の発表会					事前：発表会内容の確認 事後：なし		発表(90分)	
教本：					参考文献： 関係資料を配布				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 現在の日本の社会について教育問題の視点をもって自ら考え、友達と意見交換をしながら考えを深めることを楽しもう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	乳児保育 I（Childcare of Infants I）						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 乳児保育の意義・目的と歴史の変換および役割について理解する。乳児の発達と保育について学び、必要な保育や保護者・保育者間、他機関等、関係機関との協働・連携について学ぶ。そして、乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解する。具体的な事例を紹介しつつ、乳児保育を担当する保育者の役割を理解する。									
授業目標： 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的返還及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明と確認 1. 乳児保育の意義・目的と役割 (1) 乳児保育の意義・目的と歴史的返還を学ぶ					事前：シラバスの下読みをする 事後：乳児保育の役割の復習		講義 50 分、乳児保育の自分の目標発表 40 分	
2	1. 乳児保育の意義・目的と役割 (2) 乳児保育の役割と機能を学ぶ					事前：乳児保育の意義を下読み 事後：乳児保育の意義の復習		講義 50 分、自分の意見を発表 40 分	
3	1. 乳児保育の意義・目的と役割 (3) 乳児保育における養護及び教育を学ぶ					事前：乳児保育の目的を調べる 事後：講義内容について再確認		講義 50 分、自分の意見を発表 40 分	
4	2. 乳児保育の現状と課題 (1) 保育所における乳児保育について理解する					事前：保育所等を調べておく 事後：講義内容について再確認		講義 50 分、自分の意見発表 40 分	
5	2. 乳児保育の現状と課題 (2) 保育園における乳児保育：DVD 鑑賞後、レポートを提出					事前：保育所等を調べておく 事後：レポートの再確認をする		DVD 鑑賞 30 分、話し合 30 分、レポート 30 分	
6	2. 乳児保育の現状と課題 (3) 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育					事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：レポートの再確認をする		DVD 鑑賞 30 分、話し合 30 分、レポート 30 分	
7	2. 乳児保育の現状と課題 (4) 家庭的保育等における乳児保育を学ぶ					事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：レポートの再確認をする		DVD 鑑賞 30 分、話し合 30 分、レポート 30 分	
8	2. 乳児保育の現状と課題 (5) 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場					事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：各グループのまとめ		講義 40 分、グループ討議 30 分、発表 20 分	
9	3. 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (1) 3歳未満児の生活と環境を学ぶ					事前：資料で予習 事後：講義内容の再確認		講義 50 分、グループ討議 20 分、発表 20 分	
10	3. 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (2) 3歳未満児の遊びと環境を学ぶ					事前：資料等で確認しておく 事後：講義内容の再確認		講義 50 分、グループ討議 20 分、発表 20 分	
11	3. 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (3) 3歳未満児の保育に移行する時期の保育を学ぶ					事前：資料等で確認しておく 事後：グループ討議の反省		講義 50 分、グループ討議 20 分、発表 20 分	
12	3. 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助の関わりを学ぶ					事前：資料等で確認しておく 事後：グループ討議の反省		講義 50 分、グループ討議 20 分、発表 20 分	
13	3. 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (5) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮					事前：資料で予習 事後：グループ討議の反省		講義 30 分、演習 60 分	
14	3. 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 (6) 乳児保育における計画・記録・評価とその意義を学ぶ					事前：資料で予習 事後：発育発達の復習		講義 60 分、グループで検討 30 分	
15	乳児保育における職員間、保護者、自治体や地域の関係機関との連携・協働について理解する					事前：資料で予習 事後：連携・協働のまとめ		講義 60 分、個人の反省 30 分	
教本：乳児の生活と保育 松本園子編 ななみ書房 参考文献：保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40％）、小テスト・レポート・発表等（30％）、定期試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： これからの社会における乳児保育のあり方について考えます。グループワークや個別で課題に取り組み、授業内容の理解									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	乳 児 保 育 II (Childcare of Infants II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 乳児保育の歴史、今後の課題について学び、保育の普遍的理論と現代における乳児保育のニーズをとらえ、現代に即した保育のありようを考察し理解する。また、3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性及び、養護及び教育の一体性を踏まえた援助や配慮、関わりの基本的な考え方について理解する。そして、3歳未満児の生活や遊びと保育の方法及び環境を踏まえた乳児保育における計画の作成について理解する。									
授業目標： 1. 3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明と確認 1. 乳児保育の基本 (1) 子どもと保育士等との関係の重要性について学ぶ					事前：シラバスの下読みをする 事後：講義内容の再確認		講義50分、乳児保育の自分の目標発表40分	
2	1. 乳児保育の基本 (2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的なかわり					事前：乳児保育の基本の下読み 事後：講義内容の再確認		講義50分、自分の意見を発表40分	
3	1. 乳児保育の基本 (3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ちを学ぶ					事前：乳児保育の基本の下読み 事後：講義内容について再確認		講義50分、自分の意見を発表40分	
4	1. 乳児保育の基本 (4) 子どもの体験と学びの芽生えを学ぶ					事前：乳児保育の基本の下読み 事後：講義内容について再確認		講義50分、自分の意見を発表40分	
5	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (1) 子どもの1日の生活の流れと保育の環境					事前：乳児保育を調べておく 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞30分、話し合30分、レポート30分	
6	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (2) 子どもの生活や遊びを支える環境の構成を学ぶ					事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞30分、話し合30分、レポート30分	
7	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際					事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：レポートの再確認をする		DVD鑑賞30分、話し合30分、レポート30分	
8	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際					事前：乳児保育の現状を下調べ 事後：各グループのまとめ		講義30分、グループ討議30分、発表30分	
9	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (5) 子ども同士の関わりとその援助の実際					事前：資料で予習 事後：各グループのまとめ		講義30分、グループ討議30分、発表30分	
10	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 (6) 保育園に実際に見学に行く					事前：資料等で確認しておく 事後：見学のまとめをする		見学	
11	3. 乳児保育における配慮の実際 (1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮					事前：子どもへの配慮の確認 事後：見学からの反省		見学後の発表	
12	3. 乳児保育における配慮の実際 (2) 集団での生活における配慮					事前：資料等で確認する 事後：具体的に確認しておく		おもつや沐浴等の配慮について演習する	
13	3. 乳児保育における配慮の実際 (3) 環境の変化や移行に対する配慮					事前：配慮の実際を予習する 事後：実際の扱い等の復習		演習90分	
14	4. 乳児保育における計画の実際 (1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画					事前：資料で事前調べ 事後：指導計画のまとめ		講義60分、グループで検討30分	
15	乳児保育における計画の実際 (1) 個別的な指導計画と集団の指導計画					事前：事前調べ 事後：指導計画のまとめ		グループ発表30分、演習60分	
教本： 乳児の生活と保育 松本園子編 ななみ書房									
参考文献： 保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40％）、小テスト・レポート・発表等（30％）、定期試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： これからの社会における乳児保育のあり方について考えます。実践力を付けるために演習や発表を取り入れた授業内容になっています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習	
授業科目(英文)	認知情報演習（Seminar on Cognitive Information）						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	菊 地 創									
履 修 条 件	前提科目	「認知心理学」、「認知情報論」を履修していることが望ましい								
	そ の 他									
授業概要： 現在の認知心理学（認知科学）は日常生活の幅広い分野に応用されている。そうした認知心理学の諸理論や知見を演習形式のテキスト輪読を通して学びます。受講生は事前にテキストの該当箇所を読み込み、要約をまとめてプレゼンテーションする。その中で理解が難しい箇所や説明が必要と思われる部分について解説する反転授業の形態で行う。										
授業目標： 認知心理学に関する専門書を読み解く読解力と、認知心理学に関する知見を他者にわかりやすく説明する能力を獲得する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション：講義の進めに関する説明する。					事前：シラバスの確認 事後：教本精読（pp.2～12）		講義 90 分		
2	「感情と記憶の研究の過去、現在、未来」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.14～27) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
3	「将来のプランと認知心理学」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.28～41) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
4	「潜在記憶研究における想起意図と想起意識」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.42～59) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
5	「表情認知と認知心理学」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.60～76) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
6	「にのいと記憶の認知心理学」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.77～90) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
7	「乳幼児の知覚・認知」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.92～103) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
8	「加齢による認知機能の低下と向上の可能性」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.104～121) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
9	「犯罪捜査（目撃証言）を支える認知心理学」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.124～139) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
10	「人工物の「使いやすさ」と人間の認知過程：認知工学とは？」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.140～152) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
11	「注意と認知心理学」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.153～172) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
12	「未成年の薬物乱用と認知行動療法」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.188～197) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
13	「精神科臨床と認知心理学：統合失調症とうつ病にみられる認知機能障害の意義」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.198～208) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
14	「発達障害と認知心理学」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.209～220) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
15	「動物の認知を測る」の内容に事前に作成した要約をプレゼンテーションする。					事前：要約作成 (pp.248～259) 事後：知識整理と要約修正		講義 45 分、 発表 45 分		
教本： 「認知心理学の冒険」兵藤宗吉・野内類（編）ナカニシヤ出版 ￥2,700										参考文献： 講義内で適宜紹介する。
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 教本必携で受講し、受講の態度やマナーに留意すること。ただ読むのではなく、内容を考えながら読むこと。テキストの内容を自分の言葉で説明できるようにすること。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	認知情報論 (Cognitive Informatics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菊 地 創								
履 修 条 件	前提科目	「認知心理学」を履修していることが望ましい							
	そ の 他								
授業概要： 私たちは日常生活の中でどのように物事をとらえ、対処しているのか。この講義では、特に日常場面における認知活動に重点を置き、人間の認知過程に関する応用的知見を紹介する。また、認知科学が抱える様々な問題にも触れていきたい。									
授業目標： ①日常場面においてどのような認知的課題、問題があるのか理解し、説明できるようになる。 ②認知科学に関する研究知見を理解し、考察することができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	認知過程とは何か、また、書くことや記憶について認知過程について解説する。					事前：シラバスの確認 事後：ノート、疑問点の整理		講義 90 分	
2	認知過程に関する文化的実践と研究例について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
3	目撃証言研究について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
4	捜査面接と虚偽告白に関する研究知見について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
5	人とモノの情報処理的な相互作用について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
6	人工物のデザインに関する研究知見について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
7	高齢者の認知機能について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
8	リスク心理学の研究知見について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
9	交通心理学の研究知見について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
10	ヒューマンエラーに関する研究知見について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
11	技能学習における結果の知識や練習の条件について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
12	技能学習における技能の記憶や技能の転移について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
13	社会的学習の理論について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
14	社会的学習における観察学習や模倣学習について解説する。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：資料の講読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
15	講義全体のまとめと理解度の確認を行う。前回の講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：講義全体の復習 事後：理解の補完		講義 70 分、 発表 20 分	
教本： 授業プリントと関連資料を提供する。									
参考文献： 「スタンダード 認知心理学」原田悦子(編) サイエンス社 「グラフィック 学習心理学 行動と認知」山内光哉・春樹豊(編) サイエンス社									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分が物事を認識し、それを記憶したり、想起したり、あるいはその良し悪しを評価したりするときにどのような問題が生じているのか。講義時間に限らず、日常場面における認知活動というものを意識してほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	認知心理学（Cognitive Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菊 地 創								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちの身の回りにある様々な対象や出来事、情報に対する私たちの認知活動（記憶や思考など）を、その情報の処理としてとらえた時、私たちの頭の中ではどのような情報処理が行われているのでしょうか？本講義では人間の認知過程を解明しようとする研究と、これらの研究から得られた知見を紹介する。									
授業目標： 認知心理学的な人間のとらえ方を理解できるようになる。基礎的な認知機能に関する研究知見を説明できるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	認知心理学とは何か、認知心理学を学ぶことの意義について解説する。					事前：教本精読（pp.1～9） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 90 分	
2	記憶の情報処理モデル（多段階貯蔵モデル）について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.12～21） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
3	作動記憶について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.21～31） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
4	長期記憶（エピソード記憶と意味記憶）について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.32～42） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
5	潜在記憶と潜在学習について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.42～50） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
6	言語の理解と状況モデルの機能的側面について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.51～60） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
7	状況モデルの構造的側面と生成的側面について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.60～73） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
8	問題解決における制約の影響や主題内容効果について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.74～83） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
9	類推的問題解決や協同問題解決について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.84～87） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
10	意思決定研究とその理論について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.88～95） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
11	注意の仕組みやコントロールについて解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.98～112） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
12	実行制御（プランニングなど）の仕組みについて解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.112～120） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
13	「社会の中に分散された認知」の考え方について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.141～150） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
14	「状況的行為」の考え方について解説する。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読（pp.150～157） 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70 分、 発表 20 分	
15	講義全体のまとめと理解度の確認を行う。講義内容についての考えや疑問点について発表を行う。					事前：講義全体の復習 事後：理解の補完		講義 70 分、 発表 20 分	
教本：スタンダード 認知心理学」原田悦子(編) サイエンス社 ￥2,500 参考文献：講義内で適宜紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 受講態度やマナーに留意すること。自分が物事を認識し、それを記憶したり、想起したり、あるいはその良し悪しを評価したりするときにどのような問題が生じているのか。講義時間に限らず、日常場面における認知活動というものを意識してほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ネットワーク技術 (Network Technology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： インターネットのしくみや通信技術と発展について講義する。Twitter トイモデルを構築し、実際に操作することで、情報通信技術の利便性と問題点について、体験的に理解する。ネットワークを介したコンピュータの利用について基本的な概念と考え方、および活用の実際について解説し、コンピュータネットワークの基礎知識の習得を目指す学生に向けた内容とする。									
授業目標： コンピュータネットワークに関して理解を得る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：RDBMSについて予習する		講義	
2	データベースサーバにアクセスして情報を取得する					事前：PCに適宜ソフトウェアをインストールする 事後：日常でのデータベースの利用を調べる		講義 60 分 演習 30 分	
3	エッジコンピューティング／ウェアラブルデバイス／5G 通信を学習する					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
4	スマート家電／スマート照明にアクセスする					事前：スマート家電について調べておく 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
5	IFTTT を経由してスマート照明にアクセスする					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
6	Twitter アカウント、フォロー、ツイートの連携モデルを考える					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
7	Twitter トイモデルの操作を通して、Web サービスの仕組みを調べる					事前：twitter について調べておく 事後：twitter API について復習する		講義 60 分 演習 30 分	
8	スマート照明と twitter を連携させる					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
9	コンピュータ通信の技術的基礎を学習する					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
10	情報通信技術の歴史について学習する					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
11	インターネット／ローカルネットワーク／TCP/IP					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
12	様々なプロトコル／サービスとは／クライアント・サーバー・モデルとは					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
13	課題：ネットワークは生活をどう変えるか（調査）					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
14	課題：ネットワークは生活をどう変えるか（発表）					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義 60 分 演習 30 分	
15	総括					事前：資料を下読みする 事後：リアクションペーパーを記入する		講義	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： リアクションペーパー（50%）、課題（50%）で評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ネットワーク構築論 (Network Construction Theory)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論、ネットワークシステム							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： ネットワーク技術は、すべてのIT システムの実現において必須の要素技術となっている。本講義では、インターネットに関する基礎技術を中心に、コンピュータネットワーク全般に関する技術概要を網羅的に学ぶ。また、最新技術動向と共に、ネットワーク構築の基礎理論の概要についても学ぶ。									
授業目標： ネットワークに関連する基礎的な用語と最新の技術動向を把握するとともに、ネットワーク構築に用いる基礎理論を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○１つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、ネットワーク概説 ネットワーク技術の歴史、情報通信サービスの概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	ネットワーク技術の進化とプロトコルの基礎 OSI 参照モデル、プロトコル構造、国際標準化動向					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	インターネットの基礎技術 1 TCP/IP の基礎、アドレス情報の基礎					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
4	インターネットの基礎技術 2 IP アドレスの変換方式、DHCP、名前解決 DNS					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
5	インターネットの基礎技術 3 アドレス情報の設定法、ネットワーク・コマンドの利用方法					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
6	インターネットの基礎技術 4 WWW、電子メール関連技術					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
7	ネットワーク機器の基礎 Ethernet、HUB、ルータ、スイッチ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
8	IP ネットワーク技術の基礎 ルーティング技術、インターネットアクセス技術					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
9	ネットワーク構築のためのインターネットサービスの基礎 サービス品質規定法、VPN 関連サービスとその技術					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
10	ワイヤレスコミュニケーション技術の基礎 ワイヤレスアクセス方式と無線 LAN 規格					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
11	ネットワーク構築の基礎理論 1 ネットワーク評価のためのネットワーク理論					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
12	ネットワーク構築の基礎理論 2 即時系トラヒック理論の基礎とネットワーク設計法への適用					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
13	ネットワーク構築の基礎理論 3 待時系トラヒック理論の基礎とネットワーク設計法への適用					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
14	ネットワーク構築の基礎理論 4 セキュリティ技術を含む広義の信頼性技術					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
15	最新技術動向の概説					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									